都名所圖會

龙青龍
再[illegible]刻

都名所圖會卷之三目錄

左青龍

稲荷土師圖　稲荷社　三の峰　田中社
東福寺　通天橋 紅葉名所　萬壽寺　泉涌寺 泉涌水
新熊野觀音　同権現　拂園 貞徳翁古跡　妙安寺
三十三間堂 夜泣水　矢数之圖　後白川院旧跡　寶生院
修成院　菅源院　智積院　新日吉
大佛殿　耳塚　大佛餅屋跡　継信忠伝塔
洛東陶工圖　小松谷正林寺　豊國山　阿弥陀峯
清閑寺　歌中山　音羽山清水寺　音羽瀧
地主権現 撮名所　子安觀音　西大谷　鳥邊山
昊山正法寺　三年坂　高臺寺 撮萩　菊谷
八坂法觀寺　庚申堂　伽羅觀音　七觀音

安井観勝寺　金毘羅権現　午王地社　菊水
下河原　蛙ヶ池　祇園社　二軒茶屋
花見圖　双林寺　西行菴　西行楼
東大谷　長樂寺　真葛原　園山安養寺
吉水　知恩教院　一心院　崇泰院
瓜生石　白川橋　佛猿堂　粟田天王社
佛光寺廟所　植髪堂　明智首塚　長田首塚
小鍋治旧地　神明社　東岩倉　将軍塚
蹴上水　日岡　姥ヶ懐　佛廟野
天智天皇陵　四宮川原　法羽社　花山
滝谷　苔集滅道　小町寺　山科
本願寺旧地　蓮如上人塚　西本願寺佛坊　東本願寺佛坊
牛尾山　南禅寺 駒ヶ澤　永観堂　悲田梅

来迎松　鶯の池　若王寺　光雲寺
住蓮山安楽寺　廉谷万無寺　談合谷　拂門澤
黒谷金戒光明寺　鎧掛松　紫宛石　真如堂 江原名所
吉日社 明星水 祭沢　百万遍知恩寺　銀閣寺　月待山
六文字送火　千菜寺　将軍地藏　白川石伐
白川瀧　一乗寺村 下り松　北山佛坊　詩仙堂
八大龍王　赤山社　玉山社　佛蔭社
高野川　八瀬里　脊競石　竈風呂圖
大原里　勝林院　来迎院　融通寺
音無川　呂律川　後鳥羽院塔　古知谷阿弥陀寺
寂光院　汀楼　朧清水　江文社
比叡山　日吉山王　無動寺　近江八勝遠景圖
元黒谷　横川　飯室


先本
二月や
久ふ
初午の
志るし
とそ
いなりの
松を
りとろ
葉も
なし
光俊



三の之峰稲荷社

後拾遺
いなりゝ
三の玉かれ
うちたゝき
我祈れ
ことゝ
神もしたくよ

惠美法師

三の宮
御神
上の社
百稲社
長者社
本社

三の峰稲荷大明神はやしろハ大和大路伏見街道の南にあり注者人皇四十三代
元明帝の御宇和銅四年二月十一日午の日此山に出現しゆへ本社第一
宇賀御魂神第二素盞烏尊第三大市姫已上田中社四大神此二神殿儀
せくく五産と称ハ弘長二年に告あらて文永年中に併せるなり 神祇拾遺
又田中社の客人神大歳神ハ鶴と化して稲の實を含んで来現しとなふ
此ゆへに一切の為を敬ることなし忌といふ延喜八年故贈太政大臣菅原朝臣
時平三箇社を修造せ又永享十年に社殿三の峯より今の地に移せ
なり上の社ハ宇賀御魂伊弉諾伊弉冊尊を崇せる二月の初午年ハ
和銅年中二月初の午の日出現より恒例の祭事とする倉稲の豫兆
よりて土瓮泰粟等の土産とするなり古ハ神木の杉の枝をとりて
帰るに家に收しとて

初午をよめる

稲荷山しるしの杉の枝なきくあまつくへのかさにかゝる

貞仲朝臣

三の峯の御注連張ハ毎歳正月又日なり 古山の末後に渉あり今ハ毎個て小ゆ流れ簾にあつて移川といふ
拾遺
渉のあかりてすまハ稲荷山七日のかりしるしとしらん 読人しらず

稲荷の辛の時

未本
いなり山杉下れ御祭さてこれをたくあと地する豫なりなり 周防内侍
例祭ハ四月上の卯の日之神輿五基九条の御旅所より東寺南の大門
を掻入て金堂の前に神輿を人産子ハ神供と頭に戴て運び持てく
敬じ僧侶ハかゝなく出て法施し東寺当務の僧正をはじめ一山の
衆僧ハ東西に列し弦召ハ東のかたに整ひ其厳重なる粧ひ他り
なら嫌すなし是を東寺の神供といふ近年安永三甲午年より祭
礼の式再興ありて行列の首ハ勅裁綸旨弓楯の神具かぎく烈なる
神輿の後にハ社司のめんく誘るまて供奉し唐鞍の神る三疋其
外大幣排鬚菅蓋錦蓋等のおとくしきなり巍々滔々として
壮麗なる祭式なり



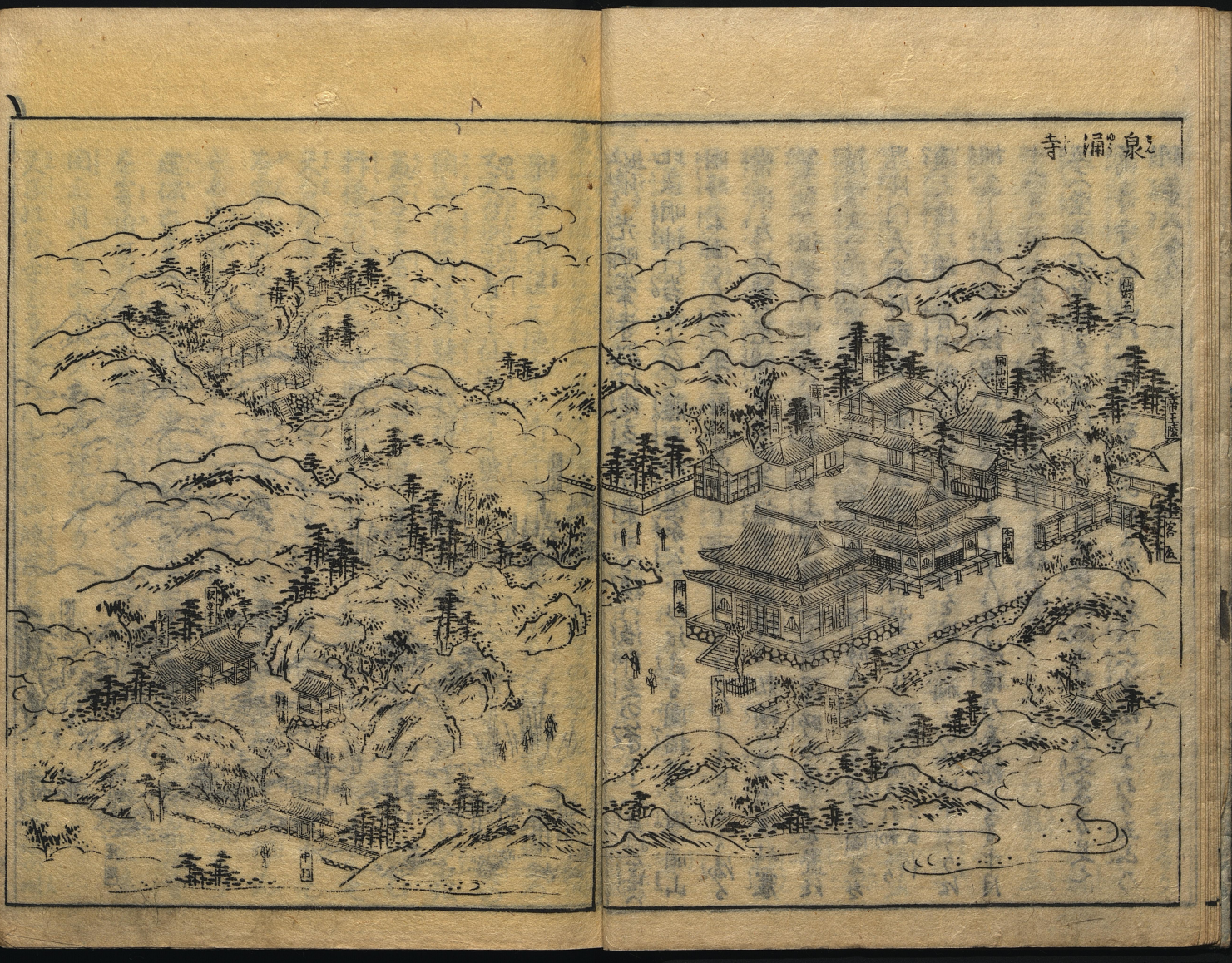

東福寺

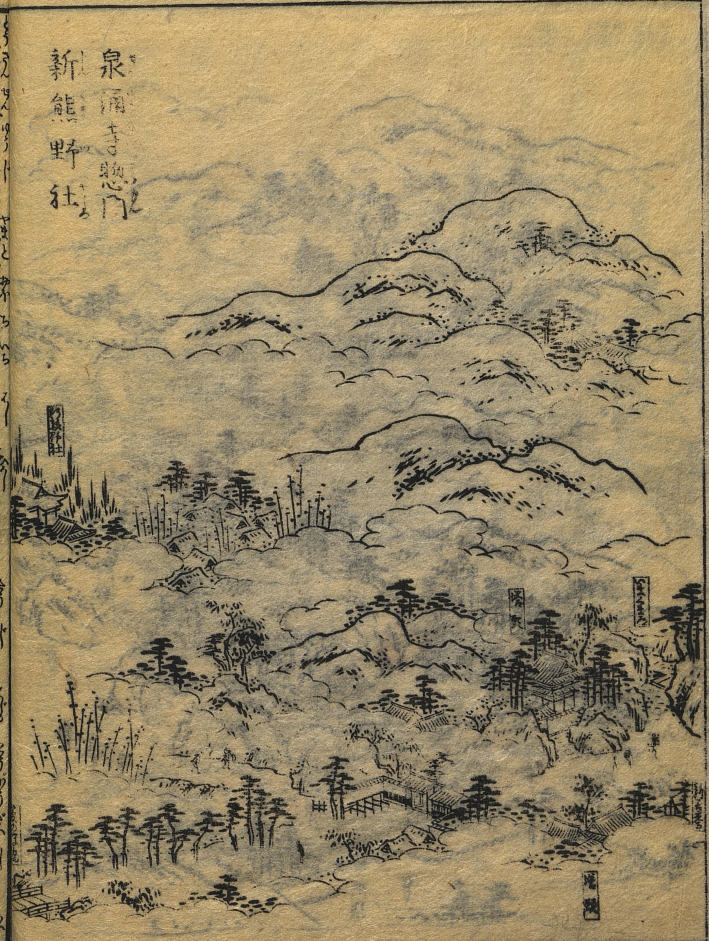

東福寺北門
萬壽寺

惠日山東福寺は五山の第四なり大和大路一の橋の南にあり當寺の開山は
聖一國師諱は辨圓後別藁科の人なり十歳にして天台宗を學び
十五歳にて三大部を終る十八歳にて園城ちにて髮を剃東大寺の
戒壇にのぼり受戒せりあるとき三井を出て野州長楽寺にいたる
栄胡に随ひて別傳の道を求めび粋その奥旨を極んるを欲し
人皇八十六代四条院の御宇嘉禎元年に入唐し宋の徑山寺玄楽
を師とせり斯て六年を經て仁治二年の秋帰朝せり寛元元年花洛
に光り九条大相國光明峯寺殿下より 関白 導雲 東福寺を賜て住職せり
弘安三年十月十六日七十九歳にて遷化を偈曰利生方便七十九年欲
知端的佛祖不傳。遷化の日當山の竹木色を白色に変じ双樹なり
枯たり九十四代花園院の御宇正和のとしめ諡を聖一國師と宣旨を
賜る凡國師の號は足りたしはるとき 當寺の號は南都東大興福の両
号を合せて用ゆるなり
山門には妙雲閣といふ横額あり足利將軍義持公の筆なり

佛殿の本尊ハ釋迦佛法堂ハ潮音堂と號す額ハ五卒の筆なり
天井の幡詩ハ初見兆殿司の筆なり此人大道和尚の弟子なりしとく
諱ハ明兆字ハ吉山なり凡来る繪ハ書ぬあるなり記ハ遅あらば龍
を画ハ天にとび不動とかれて火光りえるとかや或とは龍を画
にいまだ生身の形をみたぐ願くハ佛神生身の形をみせしめ給へと
持念せるに思園池の水漲上り生身の大龍目前に出現せり其形を
うつして天井に画兆殿司滅後に画龍光び出くく登天をとこ云傳ふ
其後狩野光頼足を画今の蟠龍されなり當寺の涅槃像ハ應永
十五年六月殿司八十七歳にして画なるよし照出なり本朝無双乃
像なれど世に名高し其外當寺に図畫多し一生画る繪具ハ神感
を得て稲荷山の小より出る今繪具谷といふ
方丈の額ハ張即之の筆選佛場の額ハ徑山無準の筆也本尊ハ
文殊菩薩聖観音弘安並に當寺の鎮守ハ成就宮といふ
石清水加茂
春日稲荷山王

五社を勅請を光明峯寺殿の建立なり東司の額ハ張即之の筆十二重の石塔ハ
比良明神の告によりて藤丞相道家公これ建る圓柏の古樹ハ開山
國師宋國より携来る厨の高梁も唐本にしてさはらも異国より流る
常楽房の額ハ光明峯寺の筆謚聖一國師の勅額ハ持明院の震
筆なり祖堂の中央ハ達磨百丈禅師臨濟禅師の像を安置ス
後壇ハ光明峯寺殿下の親徑山無準禅師の像あり傳衣図ハ
毘沙門天藥師観音を安ス是開山の昭堂なり
當寺建立の初より田祿の災なりしなり
通天橋の額ハ普明國師の筆橋下の溪を洗玉硐といふ此ぞとりに
楓多し秋の日人紅錦の色ぬあらうしなれど洛陽乃奇観とする十月
十六日ハ開山忌なり俗に無尚絅して群集ス
五大堂ハ不動明王を安ス正月廿八日火災除滅の札を出す文字方足之
萬壽寺ハ當山の小門三聖寺の内にあり昔ハ六条坊門にあり五山乃
列第八なり


泉涌寺

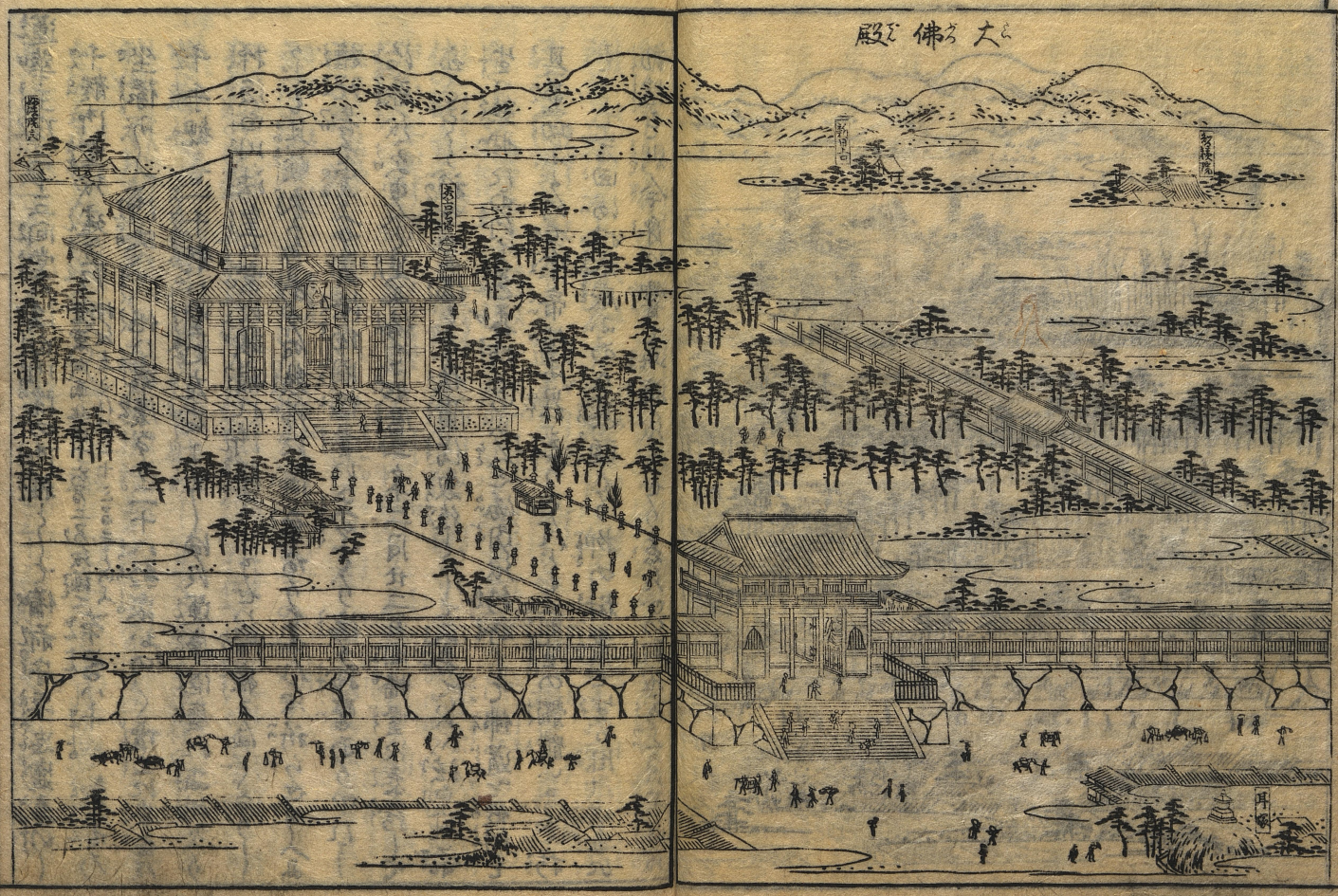


東山泉涌寺ハ大和大師一の擣れ東にあり當寺の初ハ弘法大師れ開
基なり其後文徳帝れ御宇齊衡三年に左大臣緒嗣公再建あり
て天台宗となし仙遊寺と號を此山に仙人おびしゆへなり中興の
開山ハ俊芿法師號ハ我禅それより以來天台真言禅律れ四宗ハ
兼学を當山の麓に霊泉涌出しそれぞ號を泉涌なと改む
抑俊芿法師ハ肥後國飽田郡の人なり仁安元年八月誕し四才にて
天台沈亀なの孫暁が弟子となり十八才にて落髪し十九才にして
右寧府れ観書なにて具足戒をうけ三十三歳にて伴宗ハ傳ん
ため宋國にまたり四十六才にして嘉定四年二月廿八日帰朝せり
建保六年に和州の刺史中原信房が崇敬によりて我鎌地泉涌寺
を寄附せり夫より當寺に住職して後堀川院の御宇嘉祿三年
国三月八日六十二才にして迂化せり
天子れ官寺となるなハ八十六代四練院を權輿とせり此帝降誕の時

我禪々々と宣り後苅我禪和尚再生して天子の位に昇り四條院と
出誕しゐるよし人の夢に見えたるとぞ見たり以来代々の帝當山へ
葬つ奉る後は前帝神主殿の前にあり
佛殿の本尊は弥勒釋迦阿弥陀の三尊を安置に東山といふ額は
張即之の筆なり
舎利殿の本尊は佛牙の舎利なり二重の金塔に安置に拵此佛
牙は由来を尋ぬに佛涅盤に入ゐる御時羅刹足疾鬼ひ奉り窺ひて
佛牙を掠奪たりし故韋駄天降伏をくわへたるとゝめ益夜に敬て
身を放し給ひ給ひて佛滅後一千六百余年を経て大唐の白蓮寺道宣
律師戒香薫修の威徳冥感にも通じたるまで韋駄天ゆゑを聞し
三皈八戒をうけ給ひて其報恩に此佛牙を持つけゐたり其より人間に傳り
白蓮寺に納め金閣の寶函に秘しかけるを日本に渡つゐるは當山中
興の開基後苅法師の末弟湛海我師の宋國に渡りし前後を慕ひて

白蓮寺に詣し赤梅檀を供ずて佛牙を恭礼し作信のあまり竊に舎
利を頼るのよし述べれども叶はずして空く本朝に帰しが猶志願やむまず
かさして入唐し二階の楼門三重の塔婆をかまへて袖種を塗溟にうつゐるゆゑ
なく江陽軍に至りしが白蓮寺の修造成就し大流寺甚深の志を感じ其
徳の凡人にあらざる事を知りて酬答して来賓に住むべきよし流命一回なり
しかば足以万里渡海の本懐は偏に佛牙の求請にあり二度来朝乃来頼
去りしながら舎利の利益をいふよし具に述べれば忽佛牙の付属をゆるし
たり歓喜の涙をおさへて帰帆の纜をとれよとゆゑなく彼御舎利を本
朝にうつし當寺の本師と崇なり
観音堂の本尊聖観音は玄宗皇帝楊貴妃に別れ給ひて追善乃ため
妃の貌をうつして作りゐる補陀落山の額も此帝の筆也 洛陽観音也りの具一也
新熊野観音は弘法大師の作なり西國順礼観音の具一なり
新熊野社は後白川法皇の御願にして紀州熊野之所授現を勧請せり


蓮華王院
三十三間堂


大佛殿

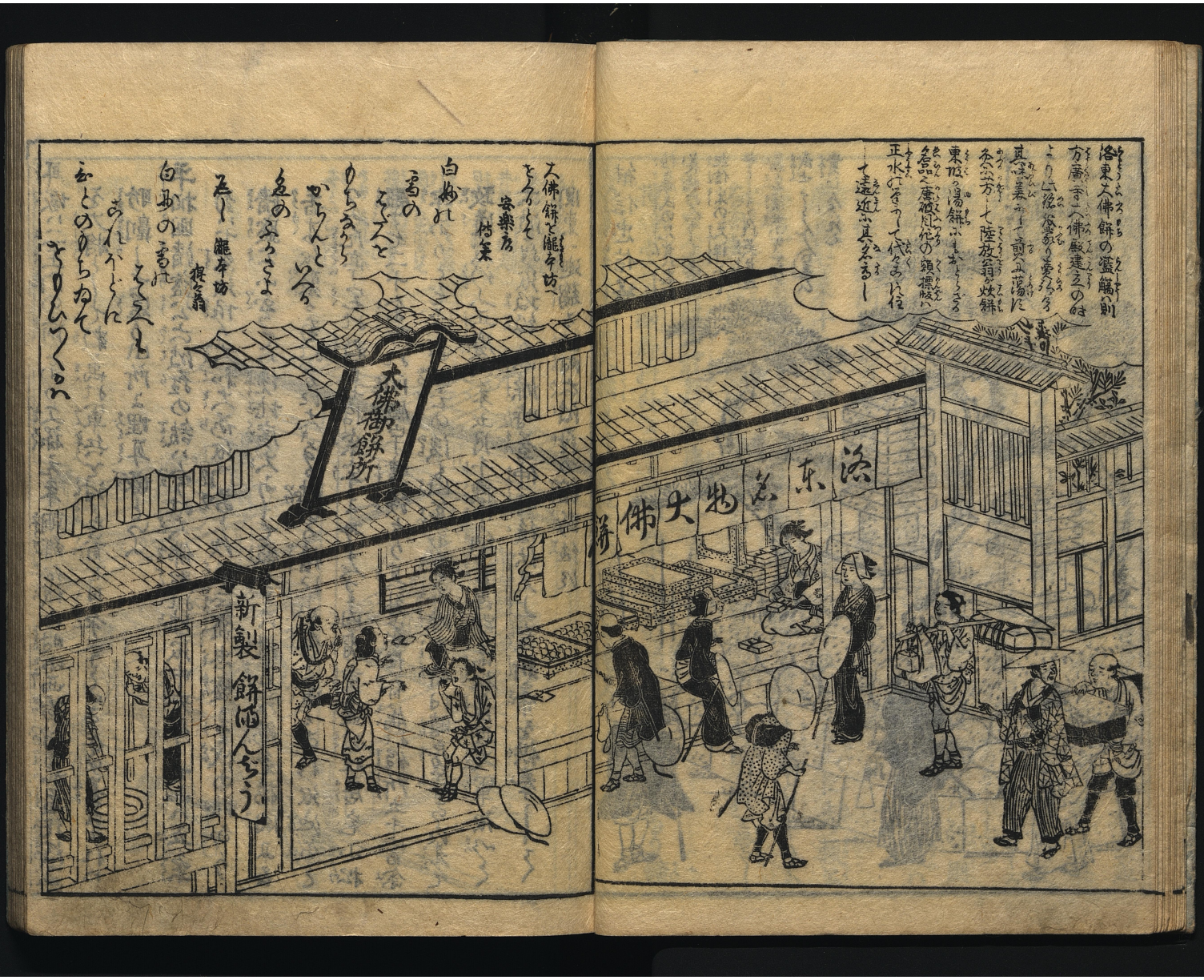
蓮華王院三十三間堂は後白川院の御願として備前守平忠盛奉行し
千體御堂を建立ぬ（堂東向南北六十六間二間を繼て本尊は千手観音乃
坐像にして御丈八尺他は康慶なり二十八部衆おのゝ壇上に安置
千手観音一千體は堂内左右にましまし御運慶湛慶の御作なり
抑後白川法皇は常に頭痛の御惱ましませは醫療さはぐなりし
かども其験更になしある時熊野に御幸なりてさはぬ祈らせ給へは
権現告て宣ふ如うは法師固幡堂に天竺より流る妙醫ありかれり
治療を受へしと見に依て永暦二年二月廿二日固幡堂に參籠して
ふしをしう祈給へは滿する夜貴僧忽然として又告ていはく法皇の前
生は熊野にありて蓮華坊といふ人也海内を行脚して佛道を修行を
其薫功によりて今帝位に昇まりされども前生の髑髏いまだ持
ぞして岩田河の水底にあり其頭より柳の樹貫て生る風の吹毎に
動搖を則今身に響て此惱を生せり急をかの頭を去るは苦惱を
免るべしと香水を以て法皇の頂に洒と思召て夢覚なり所をかの
所を見せしめふに河底より髑髏を得る刻さはぬ観音の頭中に籠
三十三間堂を建立して蓮華王院と号をかの柳の樹を堂の梁と
なさしむ（已上平等寺縁起の意）又或説には鳥羽上皇得長壽院を御造営ありて一千
体の観音を安置を後改て蓮華王院と號をともいへり（集記に尾に秀吉公の柱の御殿あり門外の下る柱
佐々木志津麿が籠なり）堂前に夜泣泉あり傍に池ありて表のもへなり初夏に至り
燕子花咲乱をて濃むらさきの色池の面に麗しく京師の強客廻りの
茶店に宴を催して終日さはぬ美賞を蒙寺の住境なり
大矢数の濫觴は新熊野観音なれ別當梅坊対術とぬさく八坂の青塚の的
場へ通ふ帰さに當なれ後堂に体を射初しこまなり連年諸侯の家臣出て
射術を参ぬ年ふ當所なり通矢の検證出て其一を蒙るものは金銀の麾
を渡を尾別なりは早野勘ならば八千箇を通し貞享三年四月廿七日紀州和佐
臺八郎總矢一万三千六十三通矢八千百三十三数にして一を得なり

新日吉社は後白川院の御勧請なり舊地は足なり面にして日吉坂と
今はしかるいふ所なり應仁の乱をに破壞を其後妙法院堯然法親王再
建しぬ御例祭は毎年四月廿九日近ゆ六月九日にして又あり[illegible]紀伊妙法院宮御祭の神なり
智積院は宗旨眞言新義なり本尊は不動明王興教大師の作之開山は
正憲法印當寺は豊臣秀吉公の棄君早世の為に祥雲寺を草創ある
紀州根来寺滅て後覚鑁派の断絶に成り新義の徒足を歎て
御當家に熱訴を是に依て祥雲寺を賜て智積院と號し新義派の学家と成
養源院は宗旨天台なり本尊は阿弥陀佛恵心の作當院は淺井侍郎
長政の草創にして開山は盛伯法印なり
修成院の本尊は元三大師倩に歓喜天を安に
寶生院は本尊毘沙門天なり後白川法皇の震祭妙安並に
妙安寺は蓮華王院南の門外池田町の堺にあり虚無僧の本寺とに
西國三十三州ともに小属に達磨普化ともに祖師とに

榜園は妙安寺の南にあり松永貞徳經ゆひし遺跡なり
貞徳家集曰
大和大師の云ひし大佛殿の南に地を卜ひて榜園と名ばけ花を見
実れなる後捧て超子昂が出し法華經を棒にちりばめ千部すりて
八千藏にすぞ人報恩義を造り朔めらば内陣の戸ぶりに聖徳太子
達磨大師の御親人丸貫之定家紫式部の影像をうつし妙法院
二品法親王堯然讃をさせ給ふ後四ぶりの戸にとりて吟花廊をつゝひ
芦の丸屋をうまへやらひ中の八日ともに廿日に東光院殿玖山公泰勝院
玄旨法印は法乗の會とんだなん下略
貞徳翁童名勝熊といひしとに九條殿下へまいり源氏物語を讀せられ
孟津の御抄夫字御ゆるし御所にて令部功終られは御席跋りしとに
御筆を深くしたる源氏のよしく世をみにごり三箇の大事止觀の御説まで
相承して後妙基なるを竟妄の連歌ありしに殿下ありしせ給ましくて御發句に
花に猶道分をへんゆく点の面　九條殿下
表はうにこりひかれぬは袖を　勝熊
聲とうふす氷野のきに鳴すそ　玄旨法印

大佛殿方廣寺ハ後陽成院御宇天正六年豊臣秀吉公ハ御建立也
本尊ハ廬舍那佛の坐像御丈六丈三尺佛殿ハ西向にして東西廿
七間南北ハ四十五間なり樓門ハ金剛力士の大像ハ長ハ一丈四尺
なり門の内ハ高麗犬あり金色にして長七尺これハ豊臣のやしろ
廻廊ハ南北百廿尺東西百間なり堂前に建る石燈籠ハ列國
諸侯ハ名ハ刻む佛殿の後石又正面石垣の大石ハ國々出所の名ハ
諸侯の紋所等あり廻廊の外ハ掛茶架ハ交へて植たり
慶長七年十二月四日ハ佛殿回祿を同十五年右大臣秀頼公
おとぐく再営ある寛文二年本尊銅像を改て木像としぬ
右内秀吉公ハ石塔婆ハ佛殿ハ南にあり豊國崩まで後これを営し
といふ塔前ハ石燈籠ハ慶長十年九月とあり
撞鐘堂ハ南廻廊ハ外にあり四間四方にして柱の数ハ十二本なり鐘
の高さ壹丈四尺指まくしハ九尺二寸厚さ壹尺


繼信忠信塔
佐藤氏の兄弟ハ忠肝
義膽ハ人にして漢の
紀信宋の天祥にも
抑とくらるゝ英臣也
義名後世にかゝやきて
武士たるもの人ハ慕ひ
貴むなれ
此石塔婆昔ハ十二そうと
なり皇霜かさなりて
次第に崩れ落今ハ
土產の四方に圍あり



洛東大佛餅の濫觴ハ則
方廣寺大佛殿建立の時
より出給發り愛ひ多
其味美にして煎ハ湯に
灸ハ方ニ七陸放翁が炊餅
東坡ハ湯餅にもおとらざる
名品之唐破風紀の額標版ハ
正水にきにして代々あれ住
て遠近に其名なし

大佛餅を瀧本坊へ
をくりとて
安樂房
持家

白妙れ
雪の
そこ人を
もらなから
かちんと
いへる
色のふるさよ
為し
瀧本坊
持家翁

白妙の雪れ
そこ人も
あれかどに
玉とのもらねて
をもひつくらん

耳塚ハ二王門の前にあり文祿元年朝鮮征伐の時小西橋津島加藤征役ある
を大將として數萬の軍兵を討ち首を日本へ送こさんを並なられハ
所劓して送り此所に埋耳塚といふ
平相國清盛公六波羅の館ハ今の大佛殿の地に中央にして北ハ五条
南ハ七条に限り大和大路に門前と云平正盛忠盛重代の地なり
清盛公に至りてハ境地廣大にして殿舍にハ瑞玉に殊勝極圖に至
香木に聚る南の方に大きなる池あり傍に水殿を造るこれ池殿と
いふ凡亭宅の數百七拾余宇にあらず内府重盛公の居宅小松
殿ゆゑ二十余町の間殿宇建續なり其外家に眷屬の住所五千二百余
宇ありとぞ平家滅亡の後も此等ありて小條泰時の時房等ありて
政道に行ふ正慶二年五月千種中納言忠顯赤松良忠大軍に以て
六波羅に攻る小條時並仲時後伏見上皇新帝を供奉して
関東へ遁鞠る此時六波羅の館斷絶に

洛東五条坂又
栗田口の陶工ハ安
井観勝寺領大
日山の土を制して
はくるこその後
煎ぶる火にかけて
損じて味噌なり
なり是風土の
本といひつゝ





小松谷正林寺ハ大佛殿の東北にあり宗旨ハ浄土開基ハ惠空上人なり
本堂ハ殿舍造りにして九條殿なりの御寄附と我ニ壇上にハ勇光大師
の像弘安亜三面の方に阿弥陀堂あり樓門の額ハ九條関白尚實公の
御筆之明和年中にかゝる所之此地ハむかし月輪禅定兼實公の御所之
小松殿といふ法然上人此殿の御堂にかりしゆゑなると黒谷傳記にあり
千年ふる小松のそと弘すゝにて安置寄給此通へをもすり　源空上人
此所なり西人家の北の方に谷あり是を小松谷といふ小松内大臣重盛公
の山荘にして燈籠堂の地なり　委ハ盛衰記にあり
三嶋明神のやしろハ馬町北側にあり當所の氏神にして産子ハ一代
鱗を禁をといふなり
継信忠信の石塔婆ハ馬町北側氏家のうしろにあり石の大塔二基銘
曰永仁三年二月二十日願主法西とあり一基ハ銘なし
阿弥陀堂ハ豊國の後の山なり慶長三年豊臣秀吉公を此所に葬なる



清閑寺は小松谷の良にして佐伯公行の建立なり本尊は千手観音の立像菅神の御作なり

高倉院の陵當寺にあり

治承五年四月十四日新院崩御清宗なりにて煩とす

新古 たゞ小見しこゝの御なれ人は隔たる様と思ひ出し 法中院憲

小督の墓は陵の左のかたにあり高倉院の御寵愛を蒙る桜町中納言の女なり 委は平家物語盛衰記にあり

歌中山は清閑寺の小音羽山の間をいふ

寺説 むかし清宗なの真燕僧都といふ人住るあるなれ門外よりすぐすこそ切りふ人をうんなるおかし髪ひたちめでたる女はたゞ知りゆくを見て思ひ愛公ゆゑりあれど知いひかくべき便りすて清水への道は何れぞと宿れば女見るにたゞ小まりふ公のてるすくて國ことの道といひてもある人きといひ捨て頭て姿を見失なる女は化人にて侍るにも具前談所を前の中山といふ



音羽山清水寺

新勅撰

かゝこたへ
青柏の
さくら
いかにそと
見る人
おとゝに
答まし
物故

権中納言俊忠

音羽山清水寺の本尊十一面千手千眼観世音菩薩脇士は毘沙門天
地蔵菩薩なり抑當寺は來由は爲るに大和国小橋寺は沙門延鎮
宝亀九年の夏異夏は感ぜるすありて本津川の辺りに到てみれば
一つの流に金色の光あり源は爲て直に光るに一流の澄なり傍をこれば
芽ふれたる所に白衣を着せる老翁あり延鎮は所に入て御身は
いかなる人ぞ翁は曰家名を切叡此地に住すは既に二百歳に及べり
常に千手真言を誦ふ我貴僧を待ること久し東にけんとおもふ
志あれば御身をぞらくさらに住ぬ人我は異本をなして大悲は像を作り
精舎を建ん願あり若遅くかへりなば御身我にかはりて此祈ぐひを成
就しぬ人といへり延鎮を光よりも夏は告あれば辞とるすなく翁の心
にまかせある大いに悦て翁は東に向ふて菴を出たり夫より延鎮は
所に住めり或時山科の東は嶺にて かの翁の履を拾へり延鎮おもへらく
そはかの翁は大悲の應現ましくあるべしありがたくいよいよ大悲乃
尊像を安置せんと祈ぐひ願るがうちうたらどして年月を送りに
延暦十七年に將軍坂上田村丸産婦のために麻を獵して音羽山
にまけ入かの茅菴に至れり延鎮田村丸に逢て翁のしめせしるを
告る田村丸渇仰のいひ絶なし屬延鎮の相好は見るに神仙はめし
足即大士の化現なるらんと信心いやまし家に帰て妻女にかたれり
妻は曰ひ病を治せんとて多くは殺生は罪いたりて如かしは
至し其教に由りせて大悲は尊像は安置しまらばいかどうり乃利
益なるべしと夫婦心をあはせて観音なる建て延鎮に寄附せんるを
約を又切叡なり授りし霊本は以て観音は像は作らんるを報ふ延鎮
其夜夏中に十一人の僧來て大悲の像は作る長八尺十一面四十臂は千手
観音を造り終ッて十一人の工僧行方を知らず夏覚て見るに赫奕たる尊
容現しぬひて目前にあり當寺本尊是之夫より佛殿を建んといふに此地
嶮岨にして天地もなりけるべいかどと心憂りしに其夜多くは麻きたりて

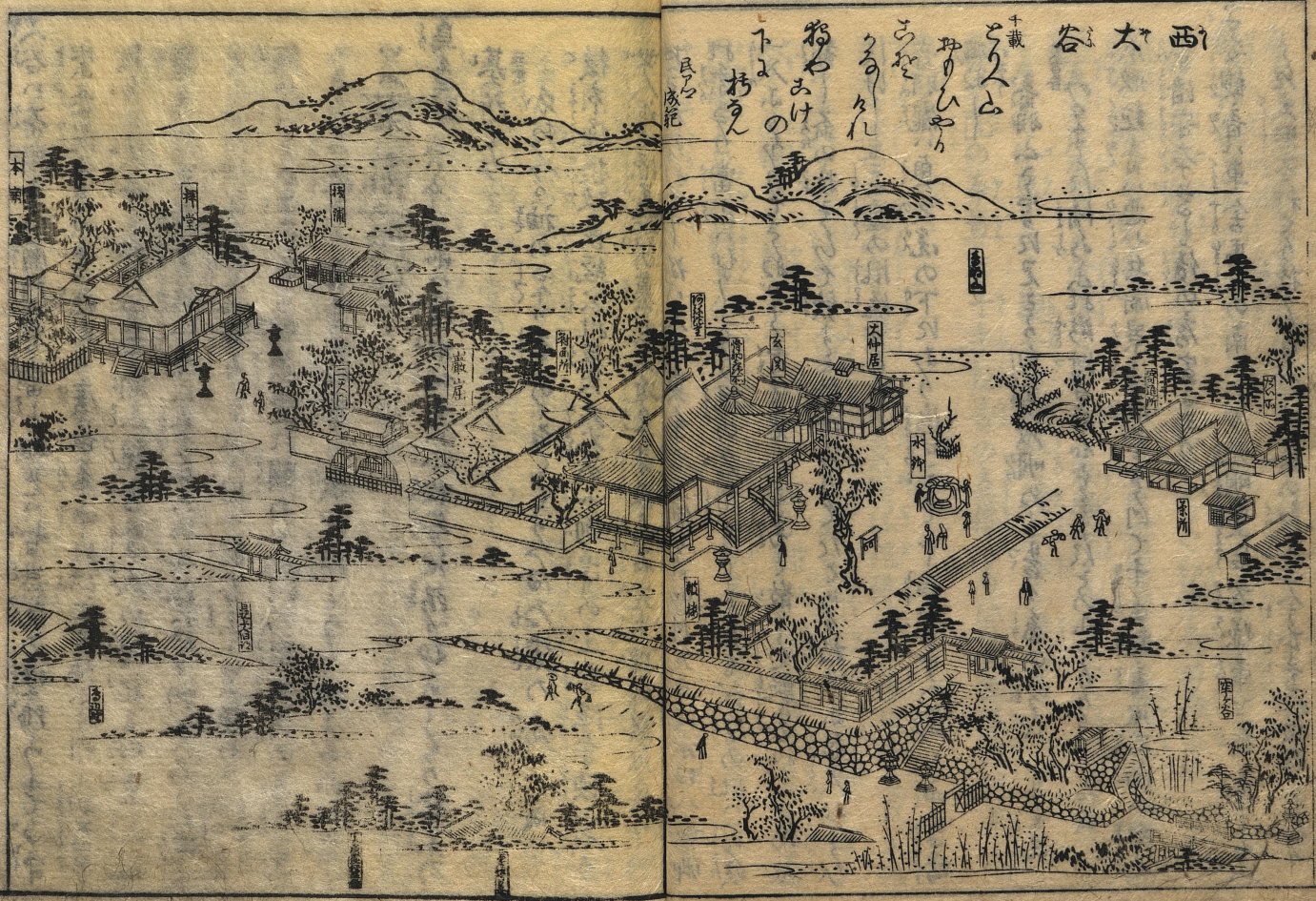
屋をとらに平地になせしかば佛殿を造りて大熊の像を安置しなれり 鹿間塚は此田縁也
脇士地藏毘沙門天は延鎮法師の作なり田村丸延暦二十年に詔を
うけて東夷征罰の時此本尊に祈りしかば観世音地藏毘沙門天彼
戦場に現じ給ひてあとぐく退治しぬ今日廿四年に田村丸太政官府
の宣旨を蒙りて堂塔を建立し勅願所となし又大同二年紫震殿
をもひて伽藍となし観音寺を改て清水寺と號せり
奥之院の本尊は千手観音の立像なり此地は延鎮法師草菴
の跡なりとぞ
阿弥陀堂は瀧山寺と號す本尊は阿弥陀佛の坐像を安置し文治
四年五月十五日法然上人瀧山寺にて不断常行念佛を開闢しぬ
今に退轉なし朝倉堂は越前の國司朝倉弾正貞景是を建立し
田村堂には田村將軍鈴鹿権現行叡延鎮等の像を安置し
鳥水は中門の西にあり霊泉にして地中より涌出る事寒暑に絶ず
地主権現のやしろは大己貴命なり例祭は四月九日清水坂八坂郷
の祭なり當山はむかしより桜の名所にして春も弥生の比は花候
一入にかかりてさかりなるとみえたる雪と散りて瓢客のさらに
動し盃の数をしてあらそふ詩はくりてたとめる枝くに短尺むすび
はけしも春色の風流なり
音羽瀧は奥之院の下にあり瀧口三をじ西のかたへ落ちて四季増
減なし
音羽山さやかに見えたる白雪の明ぬと告る鳥の聲哉 高雲院
みなかれ清水山の瀧津せは心をとまれるものにざりけり 為盛
瓜形観音は悪七兵衛景清瓜をとりて千手観音の面に彫し
景清守本尊も傍の房室にあり
子安観音は車舎馬止の南にあり光明皇后孝嫌帝を奉産しぬ
とれ天照太神より授かりぬ一寸八歩の観音之今本尊の後内にあり

西大谷

千載

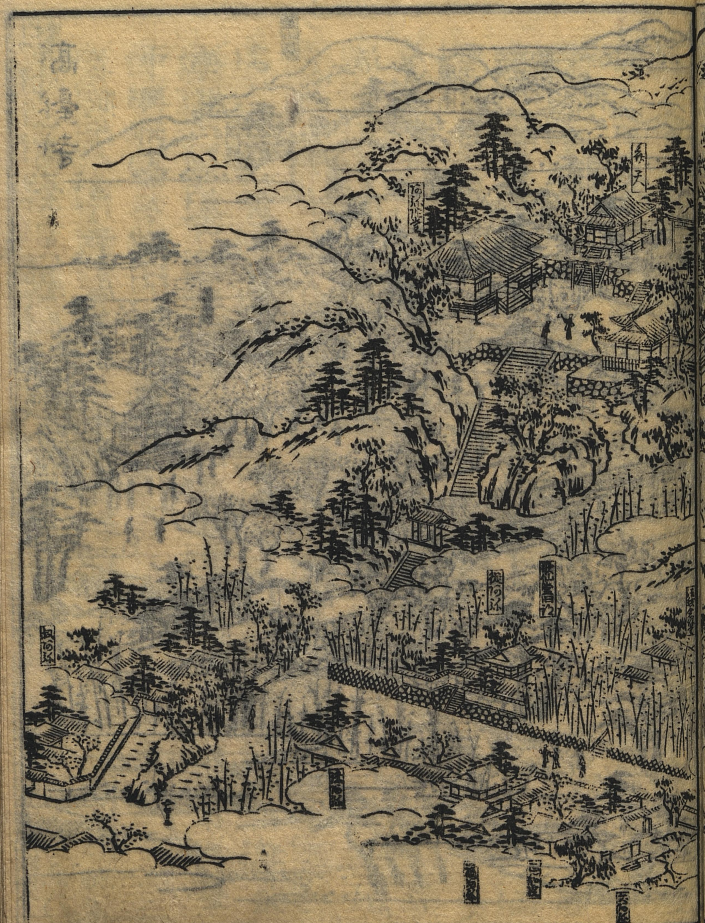
とりへ山
ねりひやり
さぞ
うるしなれ
狗やおけ
下にの
朽すん

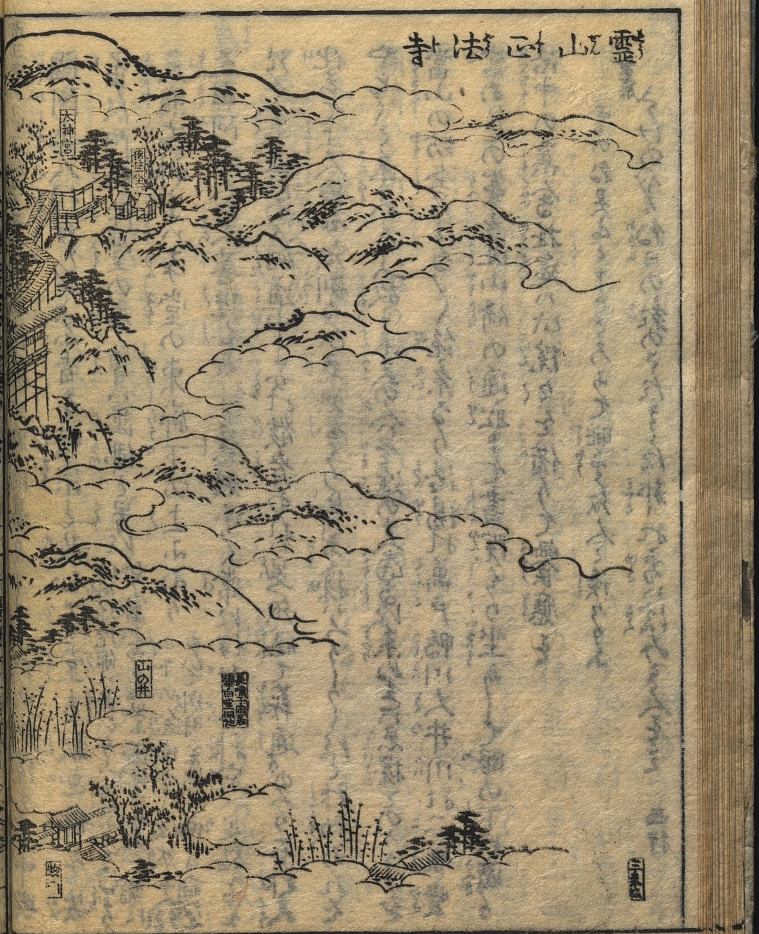
民アイ
成範



大谷は本願寺の廟所なり當山初めは智恩院の境地にして寺中
崇泰院にそれ出し給ひ慶長年中に此とこゝ給ふ所にし別舊号
我ゑて大谷と称に當寺開山親鸞聖人の傳記に曰東山西
麓鳥邨野南邊延仁寺に奉葬其の由縁ゆゑにしたゝに遷と
見えたり阿弥陀堂西面にして堂内に龍谷山といふ額あり寂如上人の筆なり
廟所はその東にあり明英堂の額あり日上人の筆なり對面所の庭上面の
かたに石藏あり當寺の什寶を藏むる所となり俗にあれば窟と
いふ大谷なり鳥邨ゑいふ細石を延仁寺辻子といふ
鳥邊野或は山とも小は清水坂面は小松谷ゆゑ限るむかしより諸宗乃
墓所なり
云葉
分ちたる袖の京ゆゑ人のくるくゝ人は石柴乃高 後成
後京極摂政良經公の墓は大谷の小側岸の上要法寺領にあり
世人混て源義經の墓といふ近年来家爲石先生碑の銘ゆゑ建る

靈鷲山正法寺は往昔傳教大師開基にして山門の別院なり中興
國阿上人住ゐして宗旨を時宗と改む本堂を釈世佛を安
置に阿弥陀堂の本尊は歯佛と号に此阿弥陀佛は笑ひ給ふ相ゆゑにして御座なり
天照太神宮は本堂の東廊下の上にあり山下の念佛堂は玄然ゆゑにして別時念佛を修ゆゑ
其國阿上人は大菩提心にして慈悲ふかく常に伊勢太神宮へ足跡をえ
ぬて系文にある附道中に女は骸骨あれば思ひ憐て葬通りゆゑ太神宮
化えて上人の心ゆゑ例ゆゑ慈悲心より出す様はくりしらぬと神勅あれば
やもしく系文ゆゑ故に系文の人は遠の本國に系ぬ是は忌様とのゆゑ
當山の坊舎はこなく絶京なり洛陽は萬戸鴨川大井川は二流愛
宕あしの峯々淀山崎の通船にて書院より坐にして眼の下に遮る
洛中の集會拝筵は此院々を借りて饗應を
雪の釣灵山とはところにて眺望ゆゑ人に讀ゆゑに
家集
こけのゆゑ釣日の新のさにまゝに都は雪は消みる人をこそ 西行






高臺寺

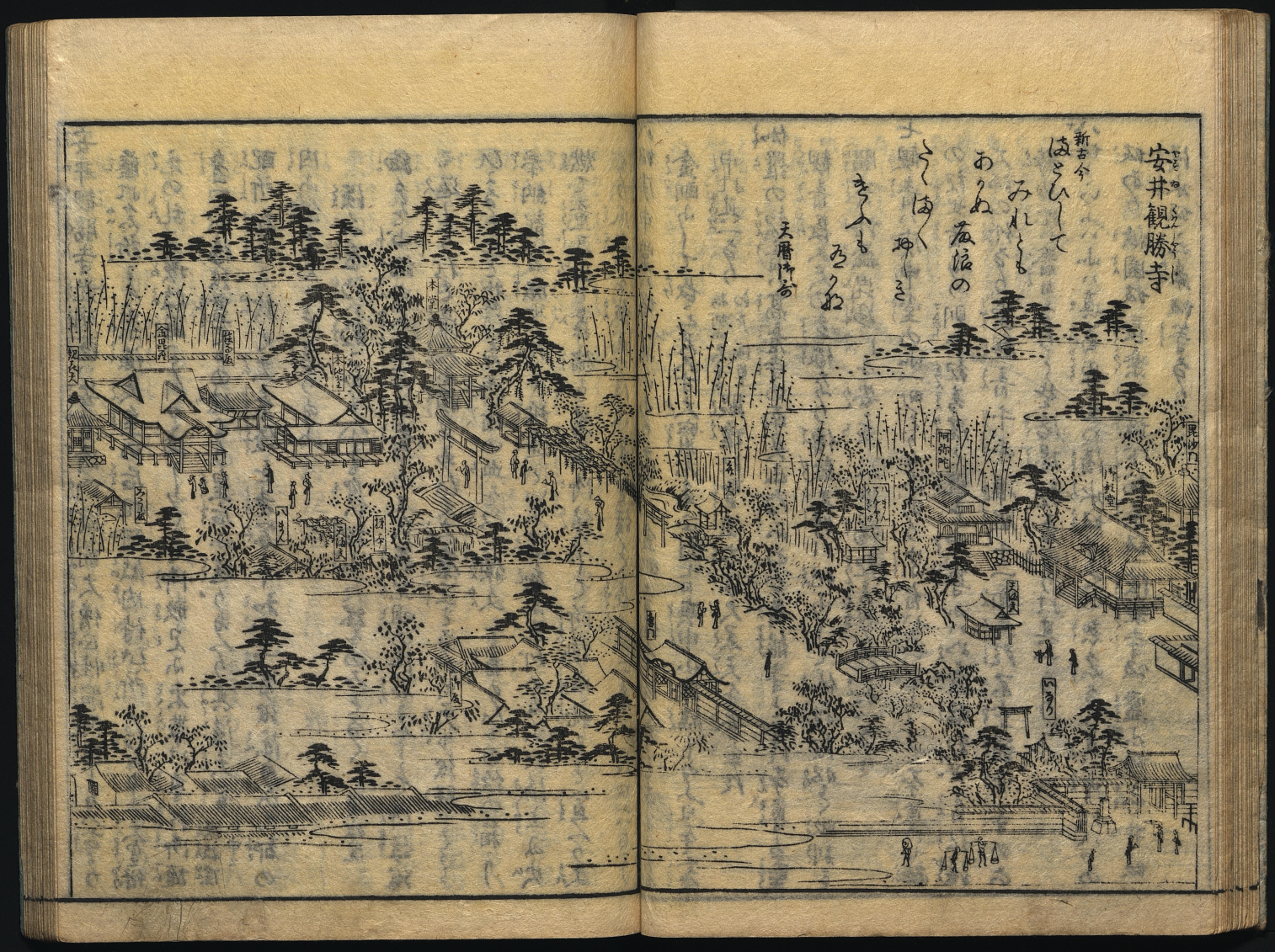
鷲峰山高臺寺ハ慶長年中に右閤秀吉公北の政所御建立乃
菩提所ニ古ハ雲居寺にして自然居士住ゐしける宗旨ハ禪 淑家
中興開基ハ三江和尚なり
佛殿ハ本尊ハ釋迦佛迦葉阿難を安置に達磨大師の御厨
子ハ政所公の御車を用ひらる方丈の庵門ハ秀吉公の松樓ハ
ミして営しといふ客殿南向にして襖の画ハ土佐光信狩野永
徳弘意了溪等なり歌物彩色美麗をなせり本尊ハ子手観音
を安置に小方丈ハ秀吉公の詠ゐし和尚十首を寄かゝる
聖護院道澄法親王の御筆ニ開山堂の額ハ重閣と来して
雪月堂の筆天井ハ政所公御車の上屋ハ用ひらる三江和尚
常光院殿の儀ハ安置に祖堂なり廊下を臥龍といふ雪
月堂の額ありしれハ紫れハ秀吉公小の政所の御魄舎あり
長甲ハ二十六歌仙をかゝる御画ハ土佐光信和尚ハ八條智仁親王
の筆なり其外内張の画ハ狩野古右京の筆多し山上ハ傘
亭ハ千利休がぬむ所なり岩栖洞ハ良ハ山腹にあり古ハ岩栖院
の旧詞なり
當寺ハ大木の樓数株ありて妖艶たる花の盛ハ園中に於寓
を催し春ハ惜むの心もがら多し又秋の頃も萩の花いみ
ぢみやびやかにいろへて京人ハ此ハ紅葉を足當境ハ健親
なり 姥桜ハ山下の坊中にあり 天皇ハ其ハ南に降る
八坂法観寺ハ上宮太子の草創なり古ハ樓門ハ盛鎮守等殿重
たる破壊年経て今修に移る
五重塔一基本尊ハ大日釈迦 阿閦 宝勝 東かたに太子堂あり小のくれ小堂ハ
薬師如来無財天歓喜天を安置にむかし浮藏貴所此寺に住
しあるとれ塔大いに傾く浮藏塔前に坐して持念に朝にあれハ
見るに塔亜にして元のぬし 元亨釈書 意となる

八坂法観寺



八坂の頭ハ文月なるを
くり上さ山の杉茶そ
なほゆかさに老恋ゆ
ぬ所ばかりしなどかげき
目さむるばかりにけるし
して塔のまへに猿狂
なし抱くうるゆきく
の人ゆかせんと本戸
口よりさらりてかれを
これをとく奥し
ついに一夜妻の嫁
となし恵寛保
延享れ頃にて作りし
今ハ絶てなし

八坂庚申堂ハ塔の西にあり大黒山金剛寺延命院と号を本尊ハ青面
金剛にして長二尺又寸大寶元年正月七日庚申に隆臨しゆふ日本二庚
申れ其一なり 拾州四天王寺 江戸浅草 照堂に聖徳太子大黒天を安置し
伽羅の観音ハ高麗寺の南夏山ニあり青龍寺と号に本尊ハ聖
観音長五尺の立像なり傳教大師れ作にして伽羅紙明く脇制を
脇士ハ地蔵毘沙門を安置し洛陽観音也りれ其一なり
七観音ハ庚申堂の小一町なりにあり宗旨ハ真言にして本尊ハ七躰
の観世音なり則七観音院と號を中尊にハ如意輪観世音弘法
大師の作なり聖観音千手准胝十一面馬頭不空羂赤等の六
躰の作ハ春日なりと称洛陽観音也りれ其一なり
八坂といふハ小ハ真葛原南ハ清水坂まその熱名なり其中にハッの
坂あり祇園坂長楽寺坂下河原坂法観寺坂霊山坂山ノ井坂
清水坂三年坂等なり


安井観勝寺
新古今
はとひして
みれとも
あかぬ
蓋信の
とくはく
ゆき
きふも
あかぬ
天暦御宮

安井観腸寺光明院ハ安井御門跡前大僧正性信再興シタマヒシ古ク
藤氏名所ナル崇徳天皇ノ后妃阿波内侍ノ住セシ三宮殿
元ノ乱ニ讃岐国ヘウツリ給シヲ慕シクテ御形見ノ束帯ト尊影ヲ随
身二人ノ像ト画テノ地ヨリ皇后ヲ送リ奉リ其後天皇（讃岐院ニ申ス）
配所松山ニ於テ大乗経ヲ書写シ和ノ一首ヲ添ヘテ都ノ
内ヘ納メンヨシヲ送リ給フ

淡ミ名ノ沖ノ松山ヨソナレド君ヲ思ヒ寝ノ夢ハカヨフラン　讃岐院

御返シニ帝大ニ憤ラセ給テ大魔王トナリテ天下ヲ滅ヘントシ
給ヒシヲ御言入道信西奏シ給ヒ若咒咀ノ御ワザヲヤ御経ヲ
ヒラクトテ御指ノ血ヲ以テ頼久ヲ書ヒラキノ経ノ箱ノ
奉納龍宮城ヘ記シ堆途トイフ海底ヘ沈メ給ヒシヲ史
燃テ童子ト生テ霖雨ヲ呪シテ所領悉ク流ス事ナド

（以下欠）

崩御シ給フ御年四十六讃州松山ノ白峰ニ葬リ奉ル已上備前記ニ委シクアリ

御霊ハ地ニ来テ夜ゝ光ヲ放ツ故ニ光堂トモイヒ又大国
法師トイフ真言ノ名僧ハ所縁アリテ系統ヲ崇徳帝尊称ヲ
現ゼシ往事ノ趣ヲ示ス大国ハ仏経奏達ノ詔ヲ蒙リシ
堂塔仏閣建立ノ尊霊ヲ鎮ムル光明院ト号シ仏殿ノ
本尊ハ准胝観音ノ御影殿ハ後水尾院ノ寛永明正院ノ
東福門院ノ号牌ヲ安置シ又弘法大師像ト奥ノ社ヲ
崇徳天皇ノ方金比羅権現ノ方ニ依頼ス世人ハシ
テ安井ノ金毘羅ト称シ諸人多ク詣ル故ニ崇徳帝
金比羅ト一称シテ和光ノ塵ヲ同シ擁護ノ明眸ヲ
ヤハラゲ利生霊験イチジルシクソノ人ヲ
當寺ノ門前ヲ新東科ト号シ中秋ハ洛陽ノ騒客多ク集リテ
東山ノ月ヲ賞ス今ハ家居繋ク連ヌレバ風景乏シ

牛王地社は下河原の西にあり祇園牛頭天王播州廣峯より初て遠座
しなふ地なりとぞ祇園百度系は本社より此社を詣し尚の数を重ぶす
昔より此例なりとかや下河原を百度大路といふ名あり舊記に見えたり
菊水の井は同所東方にあり澄泉にして茶に可なり菊洞の下流此
なりにあり故に號るとぞ 菊洞はながれに石橋をかくる是より安井境内
秘書天の社の殿と通ト建仁寺とて鴨川に入
蛙が池の古語は下河原の西安井郡通民家の奥にありむかし此地に妙法院
御門跡尊性法親王性恵法親王住せなふされ後小坂殿といふ四条の
南なれば綾小路宮とも号ひ 慶運往生秘解二曰 綾小路と中は後高倉の皇子
天台座主にそなはりしませしが抑さるくましませしに住なひし小
坂殿の棟に鶏はむれなれば池の蛙殿とりくひたり殿出しきるにしたり
徒然艸二曰 綾小路宮はおはしまほ小坂殿の棟にいりぞや縄をひかれたりしかば
彼とあしといひ出たる事侍しに誠や焉のむれなれば池の蛙殿とりたれば御覧じ
惑しませたるなんと人の語りしなれ 小坂殿の地陳考又長乐寺の隆寛律師を

下河原はむかし
是居寺今寺基寺の
北より谷川流を生
て一面の河原なり
驟雨の時は流れして
下流まれば宮川と
号し鴨川に流れ
入りなり何れは世
なりか山崩れて川を
埋ミ高樓花觀彩堤を
はらく歌舞の妓婦
花やかに出立て
あへりさまいかなるんへも
たゞにまゝぞね
べたゆうかを
あらばと
見えたり



祇園社





祇園社八下の眷属西面して石柱あり。て感神院と号す
あり照高院道晃親王の筆なり西南の樓門あり。を仁王門
神殿に中央八大政所 牛頭天王 二女 西ノ間八王子 五男 東ノ間八稲田姫 素戔烏尊 聖跡 別雷神
祇園牛頭天皇祇園女御八坂郷感神院と勅号せり 盤龍を
聖武天皇の御宇天平元年二月十八日吉備大臣唐土より帰朝の
時播州廣峯に垂迹しまつる祇園をはじめ其後常住寺より十禅
師国祖上人の神託ありて帝城守護の為貞観十一年に遷座しまつ
る中臣拔抄に曰清和天皇貞観十八年疫神崇祇ありて世の
人疾病に悩む故の外之曇祖日良麿洛中の男女を将て六月七日
十四日疫神を祇泉苑に送るそのしるしありてのち祇園会と号す祇園
祭礼
祇園社に昭宣公の御殿を施しまつりて祇園寺
と号し祇園を為天台別院
祇園社は常住殿舎造りと号し後人又祇園を
(後略)

(後略)
(後略)
(後略)

新古今
櫻けく
遠山鳥の
志たりおの
面のくし
日を
あかぬ色
この邪
春上天皇

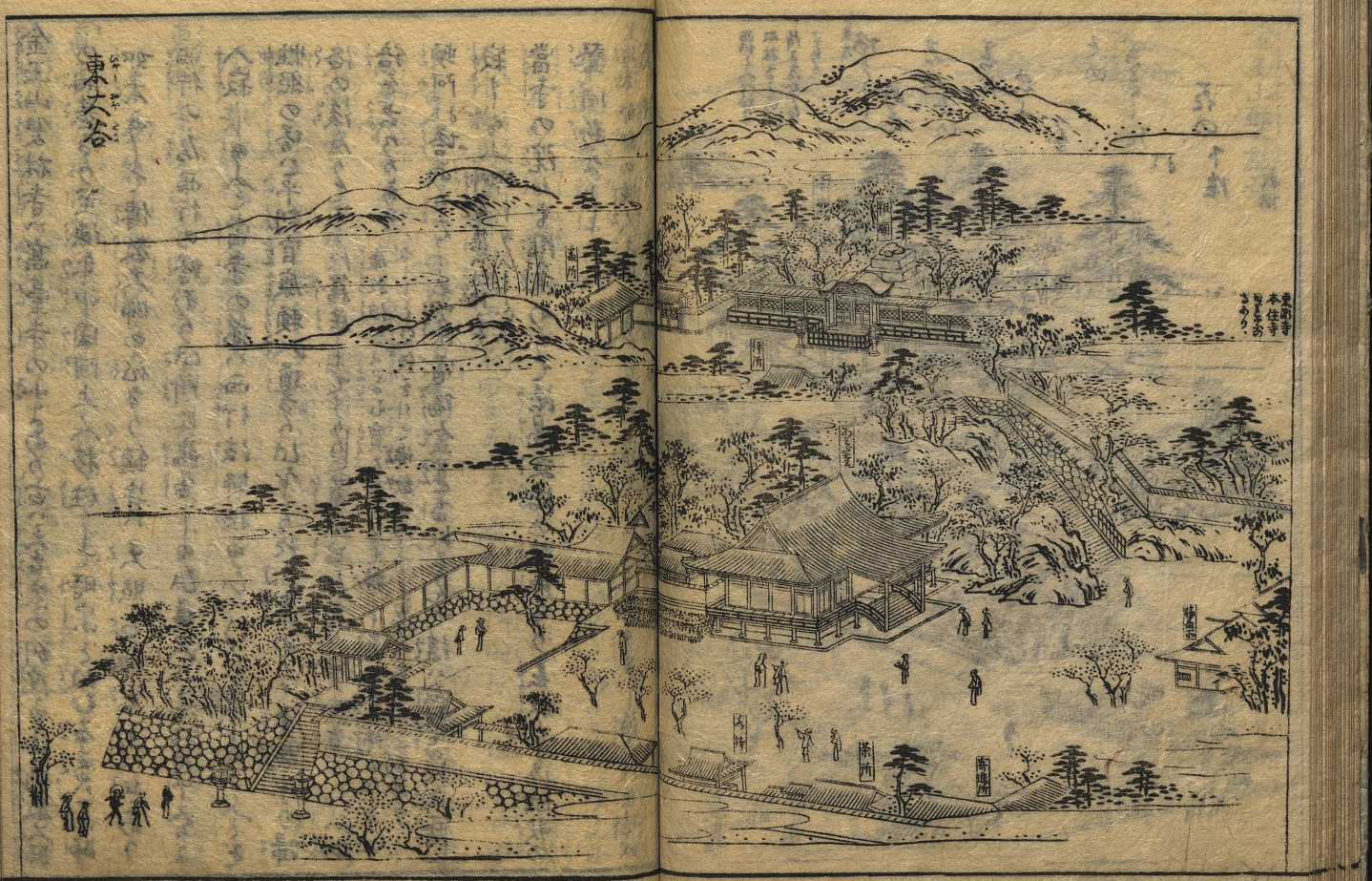


それ櫻ハ本朝此土の
名産なり其種類凡
六十九品あるなり雖然
洛東の地勢温純にして
櫻樹相應し清香純
境に積みたり中華にハ
櫻樹いまだあるを
きゝがむしたり
櫻花の詩賦なし是
其證なり櫻桃の櫻
の字なきりて櫻花
久字なし今清朝の人
長橋往来に櫻の美なる
撰て本圖にかゝり美なし
ところゝに鉢植なりして
賞美をかなし吟ゆ





金玉山雙林寺



東大谷（ひがしおほたに）

東の寺本住寺はしをおさめり。

拝所

茶所

金玉山雙林寺ハ高臺寺の小にあり古ハ天台宗の別院にして傳教大師の開基なり至徳年中國阿上人移住して時宗と改む本尊ハ某師如来にして傳教大師の作なり鎮守ハ天照太神宮東北丘にあり西行の房西行の塔あり此所に幽居しなひ建久九年二月十五日に入寂しなふ之當寺の様ハ西行法師様なひつゝに愛したまふとぞ性照の塔ハ平判官康頼入道なり此をとりに山荘ありて遠流より帰洛の後居りて此に終居してうかり 昔紙思ひやり寶物集といふ物語を出るなり 康頼浮世に為む寶をあつめて辨し真の家ハ佛のみなり外なしと法統を引て佛教に入らしむるの出なり之巻あり

頓阿の塔ありてしめ四条道場金蓮寺にをんで後ハ双林寺に閑居し寂しなふ 艸菴集ハ此地にて撰しなひしといふ

當寺の院々も風景ありて洛陽交游の勝地なり春秋ともに酣歌の聲間断なし

近衛都鄙の騒人文塚となけ此地に墳塋をいとなむ多し洛東の佳境紙

大谷ハ双林寺に隣りて良にあり東本願寺の祖廟なり阿弥陀堂の本尊ハ安阿弥の作親鸞聖人の廟塔ハ後の山脇にして墳上に虎石あり石の形虎に似たれど名とは此石なしめハ開山聖人往生の地柳馬場押小路虎石町にあり秀吉公の御時伏見城中に移しなへり其後々の地なり又ちかにうつを聖人の御墓をなし是東本願寺の境内七条の小にあり 世の人旧地を御墓町といふ 支より此地に遷して元祿年中に造営あり廟前の荘厳みやひやかに微妙なへたり 大谷の名義ハ和名に載るごとく花頂山の此地にも様多くしてく弥生乃旧號をとりて名づくるなり

此ハ光徳群をなせり

東漸寺本住寺ハ大谷の南より出りて山脇にあり其に日蓮宗にして本能寺の末派なり

真葛原ハ祇園林の北にし知恩院の南をいふ

祇園女御の旧邸ハ雙林寺門前の小にあり 東西八間 南北五間 此地を耕せんとすれハ崇みたとぞ

東山長樂寺



遊長樂寺

路迷鷲嶺通靈崛
眼渡鴨河望帝城
心在空門齡已老
須辭俗境脫簪纓

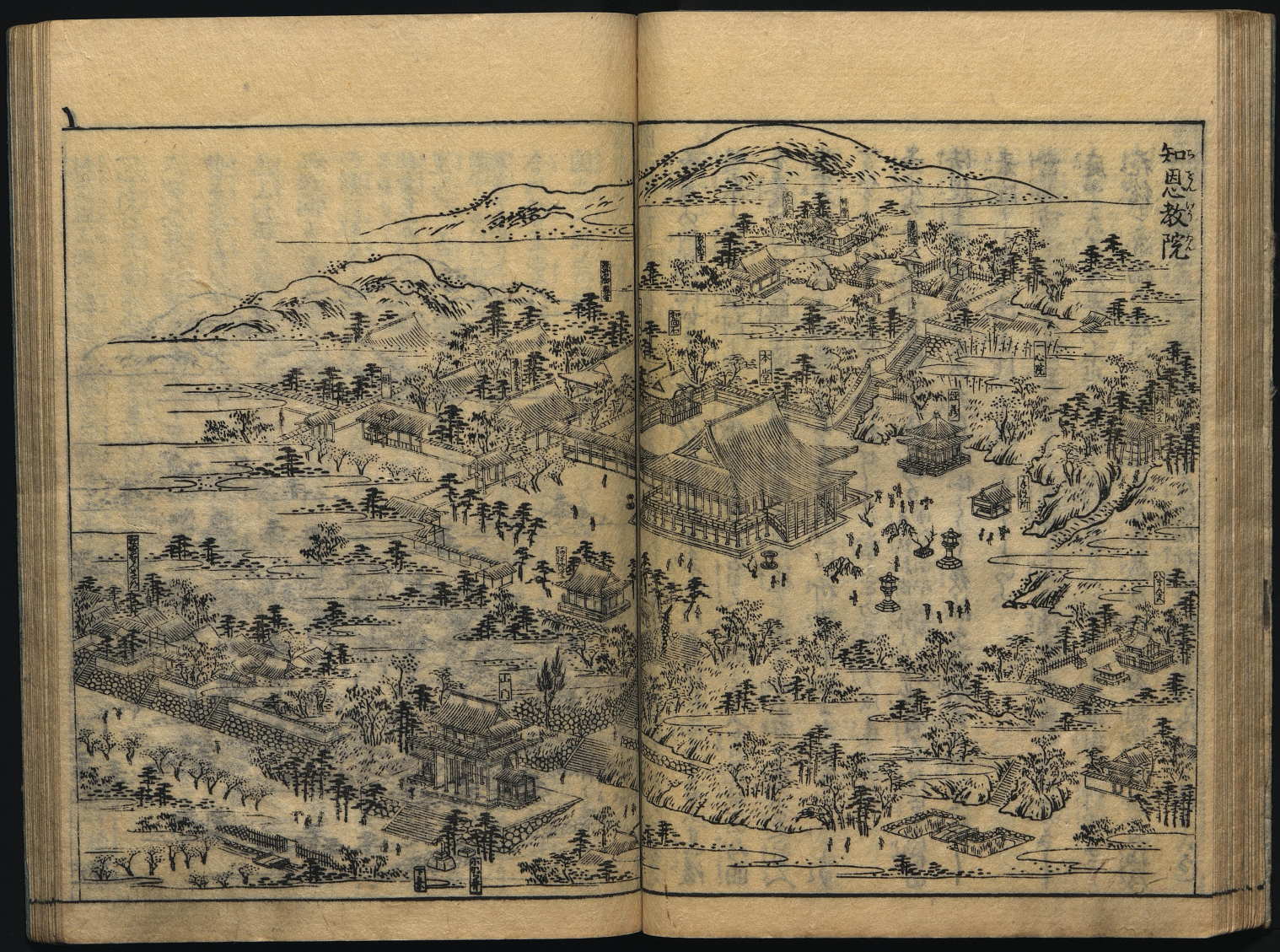
藤季經




園山安養寺
風さつく
青葛原の
夕くれハ
那ふ志ら恋
秋の
やまかせ
慈法

東山長樂寺は大谷の小に隣るなじめ開基は傳教大師にしてさても天
台の別院なり當山の致景は唐土の長樂寺に似たるとて斯號を
とせ後は圓阿上人住持して時宗とあらたむ本尊は十一面觀音なり
傳教大師唐土より歸朝の折から海上にあらはれ龍神形をあらはし頭より紀
音の像を戴て來る大師礼拝渇仰をなひたれば忽然としてかの爲像衣乃
袖に花來しゆへり當寺の本尊是之臺座の下の蟠龍は大師の能みして
出れ謂なり已上縁記 辨財天の社ありこれ神形も大師制能ありて鎮守
としゆゑ傍の庭造は相阿弥の能にして世に名高の勝地なり
夫當山は洛東第一の風景そ風城九陌の大路小路小は加茂二葉山大宮嶽
なり南は鳩の峯淀の川澄ゆきかふ舟まで眼中烏精の客とぞなる
蓮華水は隆寛律師といふ台宗の僧後には法然上人の弟子となりて
專修念佛の行者となり八十餘にして寂に其時此あたり青蓮花生ぜしとて
安德帝の御衣の幢は當寺の什寶之 御母建礼門院御飾をあらはせしゆへ時御戒師には

圓山安養寺は長樂寺の小にあり是も山門の別院にして傳教大師の開基之
本尊の阿弥陀如來は安阿弥の能建久年中に慈禧和尚ましゆゑ其後
時宗と改名圓阿上人住職せりさるに盲人源照といふ者琵琶の妙曲
を奏せしかば天聽に達し後小松院の恩寵を蒙り紫衣を賜ふ是盲人
紫衣の始といふ源照なじめなり當山に祈誓し世に名譽あらんと
とねがふ給ふして願望成就せしかば當寺の本尊を建立ゆ
吉水の井は鎮守弁財天の傍にあり 慈禧和尚此地に住ゆゑ吉水和尚といふ 青蓮院宮御代の
法親王灌頂の時此の名を閑伽とし夜源交に例式の列を乱し
來臨しゆひ御手ぞりに汲せらるゝといふ
當山坊中の書院は昇らずして高樓に立り清奇典麗いかん方なし
庭中には石を畳んで花泉を催し此を鑿ていふ名をうへ緑樹芳艸四季より
花絶を蹴踘の履の音涼しく中にも多藏房 阿弥の庭は相阿弥の能之故極房
也 阿弥の出院の画は雪溪の筆なりとぞ凡洛陽拝延の地多かれと此地に繪るゝは


知恩教院

華頂山大谷寺知恩教院ハ淨土宗の摠本寺にして鎮西流義なり元祖
圓光大師宗風開發の靈地にして吉水の禪房といふ是あり初ハ東の山坂
今の勢至堂の地にして大師入寂しゐしとき
古ハ叡嶽の別院南禪院にして慈慧大師草創の地なりまより
星霜かさなりて山門十二代の座主青蓮院慈法和尚法然上人の弘法の
隨信しゐひ此地を寄附しゐふ昔ハ今の圓山と對境一面にして吉水といふ
滿譽和尚の代より
至って　台命を蒙て嶮岨を穿て平坦とし今のぬく伽藍御建営ある
絡東第一の大度なり
山門に掲る華頂山の額ハ靈元法皇の震筆なり本堂大谷寺
の額ハ後奈良院の震筆とぞ須弥の壇上にハ圓光大師の像及安置
西の間にハ翠簾を卷上ゝく壇上に　神牌を崇奉る大師の廟塔ハ東の
山上にあり勢至堂に掲る知恩教院の額ハ後拍原院の震筆之本尊
勢至菩薩ハ安阿弥の能之
滿譽上人化人なり授与しゐふ為儀之
紫雲の勢至堂の傍にあり
大師入寂の時聖衆來迎し紫雲水面に於て異香水氣に遺まりといふ
一心院ハ其南にありて本尊阿弥陀佛ハ安阿弥の能之
拝元祖大師の傳記を鑑に英能ハ久米南條稲岡の產之ハ久米押領法



時國母ハ秦氏ナリケレバ父歎テ夫婦諸共ニ佛神ヲ祈ラン秦氏ノ家ニ
利刀ヲ欲シ宣テ則妊身トナリ長承二年四月七日午刻男子ヲ誕生時ニ
空ヨリ紫雲一流降ベリテ籠西ノ棟ノ木ノ止リ鉾鐸四方ヨリ
放光日ノ如クナル七夜ヲ経テ天ヨリ是ヲ尺樹丸誕生ノ標ト号ケヨ佛
図ヲ建テ誕生ト號シテ今ニアリ赤子ノ容貌至テ美麗ニ髪ヲ
剃ラン儀智ヲ授ケテヤモトヨリ西ノ壁ニ向ヒ九条ヲ誦シテ日圓ノ菩提
ヲ祈ル室ニ入テ学ヒヲ授ケ勉学ヲ勧ム倩ニ児ノ量ヲ觀ルニ是尋常ニ
徒ニ亀鄙ノ塵ニ埋レンヨリハ比叡山西塔ノ北谷持宝坊源光ヲ師トシ
テ勉学ヲ書籍ニ日進上人聖文殊一體トアリ時ニ久安三年二月十三日入洛シテ
勉学ノ書ヲ持宝坊ニ附テ源光ヲ師トシテ文殊ノ像ヲ礼拝ス小児ノ
上洛ヲ聞ン使者ヲ以テ速ニ登山セシムベシトノ勅諚アリ則十五日ニ登山
源光試ニ四教義ヲ授ケ玄義ヲ示ス小児ノ
月八日ニ児ヲ抱テ功徳院ノ阿闍利ニ皇圓ヲ請ジ受戒アリ四
[illegible]
ル後聞ヲ発シ曰ク夜ノ夢ニ満月室ニ入ルト見テ以来多ク三前北ノ

披見の度に足を窺る事之遍之遂に其釋義に一心專念弥陀名號行住坐臥不問
時節久近念々不捨者是名正定之業順彼佛願故文に至りて末世の凡夫弥陀
の名号を念せハ彼佛の願に乘して性に淨土性生我淨るまとりに伏し永安
五年の春四十三歳にして餘りを捨ち修念佛に帰入せりしかハ法然上人の宗
風日本に弘まりしかハ山門の悪徒これ我破せんとし或ハ大原にして問答ありしかとも
皆念佛の理に卧せり建久二年の春ハ後鳥羽院の逆鱗によりて四国に左遷
せられしかとも承元元年十二月に勅許を蒙り還京して東山大谷に閑栖しぬ是當山
の地なり遂に建暦二年正月廿五日午の刻法壽八十歳で遷化しぬ是より每歳二月十
九日二十七日の間大法會あり勅命に依て御忌と称し其中の如なる聲ハ聖流來迎れ見
を遂に蘭麝の匂ひハ布金に滿て法起れ中日にハ知恩院宮法親王御焼香あり寺
務の大僧正を初末派の流僧大會の坐列を正し敬礼渇仰の分野去此不遠れ極楽
淨土皆大師の厚徳顯然たり謂ありなり 洛陽の貴賤袖をつらいてきのめく祥集する我
俗に御忌の衣裳をしたしと云つくるなり

[illegible]

親鸞聖人廟塔の遺跡あり 大谷本願寺に聖人の御遺跡上人の代に親鸞聖人の御遺跡に
ありし山門の悪徒ら我の繁栄を称ふ是不言に押ありて破別を
小鍛冶が井ハ山門の侍にあり 三条宗近名刻をおし時 當山ハ掃数株あり 東掃淺黄掃
おしに來て此水を用ひしとも 世に名ぶし

白川の水上ハ志賀の山越より流れて東三條にてハ白川橋の名あり知恩院れ門前
を西に流れて大和大河より鴨川に落る

新十載 白川の絶ぬ流を落さて弟代ちがる友ちどりの歌 法親王覺助

東三條金藏寺御猿堂ハ青蓮院御門跡の院内なり三猿の像ハ傳教大師の作
當寺の本尊ハ來地藏と号に傳教大師唐土より將來しぬ云とも
此等の像ハ宗教とも本年あり蓋薄れ我感應しゆひて粮之れ時ハ來猿を持來りて
爰中にあらんかなり故に永く貧窮をまぬかるまとにより來地藏と号ことなり
尊勝院ハ南の丘にあり本尊ハ元三大師の坐像にして自作なり

粟田天王やしろハ御猿堂の東にあり本殿ハ感神院新宮なり例祭ハ九
月十五日にして神輿二基鉾十五本あり 白川の細れ橋をつける曲輪して見れの奥
を俗とを祭れの例式にことなり

佛光寺の廟所ハ天王社の東に隣る御弥陀堂ハ明和年中の再建にして
英麗なり廟堂にハ開山親鸞聖人の畫像我安置



栗田口
御猿堂
午頭天皇
佛光寺廟所
親鸞聖人
植髪尊像



粟田山
日岡峠

古今
うれめとは
ようきめして
ぬらそ
のうれり
をの
あいたり
山乃
葉ふ
あやち

まま
東海と
りつし
法く
なりて
山
人なり
さえて
君をさを
ゆり人



華頂山親鸞聖人植髪の尊像、佛者の廟所の東之麓、青蓮院門跡の
跡の院因小在せし故、近年此地へ移し、一堂舎を建立一華頂山御堂と
と称し奉る。有ハ天台ふかく親鸞宗を扱く正信偈大意佛恩讃文章
等の勤行あり。本尊ハ阿弥陀佛の坐像、紙安亜一石の御上の厨子にしる
紙を安に安之あらて之像ハ小桑の直衣小葡萄梅の御衣を召され、
甲冑の指貫と着し雲綱縁の源小五て児童の御髪ハ抓ける像と人皇
八十代高倉院御宇永安二年小聖人逝去ありし之時、冠錦つ之宮内卿
有範卿ハ甥八懐之即我が娘ハ対面之我親ハ皇安ハ聖人幼年ハ
出離遁世の志深ふしてハ我ハ女子の身ハ連院義法尼尚の許へ
弟子と入ハ難行を捨て易行小就之事ハ釈尊の一流を汲ハ
ハ我ハ女子


花山
山林



と称する里を経しかど忽ちに登天あるし所なり御廟の廊止まる所小堂を建る則御骨石とて陵の南にあり天皇の御骨と石の吉祥と安祥寺の御廟の東にあり真言宗にて紀州高野山寶性院の兼帯所なり依りて高野堂とも本尊八十一面観音なり傍に地蔵堂あり

惠運僧都入唐の時来しまゝの地蔵なり当寺は深殿皇妃の御願にて貞観元年の建立なり 初の地は如意山麓の谷にあり其中今に地蔵堂あり 如意山とは当寺の境内なり

と称する毘沙門堂は天台宗にて御寺教は法親王なり本尊は毘沙門天の立像にて御墓は俗教大師なり

諸羽明神の社は天児屋根命 天忠玉命の二座を鎮る 社地なり 東は四の谷 西四の宮 南のひろ谷の名あり入口の小園 北は谷口 流れ 古へ唐大和一二面の境なる 往還の土橋を之下流 そい 桂川と云

廻地蔵は諸羽の東にあり小野篁の作なり七道の辻の具一つなり平清盛

の傘ありて西光法師の建立なり

廻分は京師伏見大津の驛路なり通分の石柱の傍に紀の文字彫刻

牛尾山より〻廻分迄〻

あり 一説の山川あり 是を音羽川と云 あとは山林多き羽洲なりて古より和歌多し 山荘あり 西方寺 延徳の比高水寺殿三百花瀧と号し給ひの山院と石あり 是は小倉山麓にて牛尾観音堂小さき道小安殿石あり 行場居士の昔は弘法腰掛石 鮎洗ひ 硯子洗ひ羽洲を語の右にあり 仙人窟五大巌を左の岨をかこみ

四丁ばかり地の渕ハ陰話の左にあり 経石ハ真右にあり

新後撰 音羽山 花咲ぬ〻〻〻 逢坂の関のこなたに匂ふ春風 宗尊親王

続後拾 さゞれ石に松吹風の音絶て 後西園寺通

拾遺 音羽川 夏ハの波も名越て関のこなたに 定家

続古 時雨のみ音羽の里ハ近々れど 初のみ人ハ来ぬそうらめる 前九大臣

牛尾山法厳寺ハ七四の上にあり 真言宗にて本尊ハ十一面観音 天智天皇の御作 聖徳太子の不動毘沙門 天の行歴居士 延弘法師の像 弘安五年 天智帝の社神明社あり

不動明王 行歴の像 小野篁作 黒泥製 金生水の堂前にあり 智證大師 山岡氏 天智帝 金泥の曼陀羅を奉寫しのこと

當るはむかし延徳河の為に川の水に成れて行慶居士の沓を拾ひ大悲の化現なる
る我智せる霊場へ 洛陽清水寺の縁起に委しく沓寺の故に清水寺奥院と称する
山科本願寺は旧地は花山の巽にあり第八代蓮如上人文明年中の建立へ
實は如證如三代住職しあひて宗風繁茂して堂舎湍々こゝろ遂に佐々木定
頼なる小圓塚に及ぶ 委は信長死 船きこにあり 今山科清水と称して東西本願寺は懸所二ヶ寺
毎年三月廿八日 蓮如上人の忌辰 蓮如上人の塚は旧地の西にあり實は如上人の塚は本の野村東二町にあり
花山は瀋谷峠の東にあり元芝寺はむかし僧正遍照住あひしく天台宗なり
本尊は薬師如来則遍照の作之人皇六十五代の帝此寺に入あひて祝髪し
ゆゑに花山院とぞ申ける
花山に遍照ありしかれば僧正遍照宮は此の塚のちりなるべきて
續古 あるしなれ住家は梅花衣むかしの春や忘しは 洋守國基
苦集滅道といふは今は瀋谷峠といふ小町寺玉章地藏尊なるものは遍照ありしを小野
小町に心を通じて絶美とあり此安執の懸慕消滅の為に此塚は姫と後内に藏む





南禅寺（なんぜんじ）

瑞龍山太平興國南禪禪寺は東山の小丘あり舊亀山法皇此地に居ましを
岡山大明國師小楊て五山之上の號を蒙り當山の記に曰 右上皇亀山
院弘安年中ふし地を離宮をいとなみ給ふ 其のち正應のころ院
しなき地ところて嬪妃大ふるこのち陰陽頭ふたゝび卜ひ給ふ故
嚴勝光院僧正通智むかしの佛ふ跡世ふ豹の僧正と極た真言のそうて
當山ふ秘情して障碍をなさしめ故ふ顯密の諸師呪祚祝ふ為ふ
また百計をふ拱く同四年東福の釋圓門 當寺の開山なり 勅命を蒙く
二十の禪侶を率て宮中ふ安居しふたゝび祖師の公案を以て坐禪しまた
物怪跡ふ遁し上下安寢 上皇庸感のあまり普門を礼して伽梨袈裟
をうけ又宮をあらたに寺となし 上皇ハ上の宮ふ安居しまふの宮をまもらせ給ふ 今の龍淵
室をうつし上樓の鳴鳥の画いた佳眼 遠ふ命あり て佛殿を創建しまふの宮ハ
元信ふ水春の虎に探幽して世ふ名高 釋迦佛の坐像脇士ハ文殊普賢ふうし又金剛力士の二體を安置
ふ 十六羅漢のうち 南の窓よりハ 亀山ふ上皇の祈牌を安なふ
像ふい連座百大臨濟の像ふ似安置ふ 佛殿 山號額あり 山門ハ五鳳樓と
號して寛永年中藤堂高虎の再建ふり 蒲戸板を多く用ひてそとまる 唐木の
白檀二株山門の内ふあり石の大燈籠一基山門の外ふあり高ふ六余
石白川の産にして希代の大燈籠ふり 盖石の寶珠ふ二つ引龍の彫あり
又地輪の上ふ文字あり 南禪寺 石燈籠寛永九年九月十五日 淺戸明神の
拳龍池の乾ふあり 是當山の鎮守ふり 佐久間大膳亮平勝之寄進之為祝而悉地成就 淺戸ハ五鳳樓と
あり 土人ふいひ伝ふ小祠ふ遷る渡水年中に 南禪院ふい亀山法皇の霊勅
安置ふ金地院ふい神宮あり て白砂に鳳凰竹を植り 門左右ハ随身乃
像を安置 開祖大業和尚五山僧録司の號を蒙り ふ跡ふ滝ふい東の
獨秀峯ふあり 大僧正通智常ふ此滝布を愛し滅後ふ霊をとゞめて
當寺の護法神ふう社を院の側ふ建て 玉ふ成神仙住境とふ人 遺命を
寺へ通物故通家卿の墓ふうこ井れ長東 藏春峡堅雷指とふ滝の名ふあり
禪林寺ふうてへ稿の傍ふくもり
羊角嶺ふ天授院の東の峰をいふなり


永觀堂



聖衆来迎山禅林寺永観堂は南禅寺の北に隣であり浄土宗にして西山流之
本堂の阿弥陀如来を顧本尊と號を長二尺余の立像なり當寺は舊
清和天皇の勅願所として真紹僧都の草創之又中興の開基永観
律師永保二年二月十五日晨朝衆僧とゆに行道の念佛聲をおしまれ
信感ありて乾の方にて忽ちらく躊躇せり本尊檀をりをり
ゆひて永観をそしと顧命しゆへ律師感涙を流し是ぞ末世乃凡
生を摂取引接の證なりとて自然の由縁は記されたり 今當寺あり 律師は花山院
の皇子源観僧都の弟子なり南都東大寺の勅進職に補せられ四十二歳 祖師堂には
ありて此地に閑居しもとゝ浄土を願ひて往生十因等の書を著せり
善導大師 自然 なり因光大師西山上人の二氣を安立し 當山はもりし真言宗なり 沙大納言頼盛卿の墓存
遍此所に住して源室の滅後撰択集を披閲して一向專修の義を立源頼朝卿經藏
ふかくこれに帰依しゆひて武運長久の為に大般若經を轉讀を其例今にあり
の額法海の二字は英蔡高泉の筆なり聖衆来迎の松は堂前にあり
夜四方に異香薫し音楽聞へて蓋薩来集の粧ひ此松の枝にありしと
山号は此謂中門の左に流化の学校あり今下と称し 講堂には其後殿

PAGE(S)
MISSING

正東山若王子ハ永觀堂の小ニ隣ル天台宗ニして修驗道ハ兼職し聖護院ニ属ス本社ハ熊野三所権現宮ハ後白川法皇の勧請之傳ニ若一王子を鎮座ス観音堂ハ那智山の本地十一面観世音を安置ス 洛陽観音也の名所なり 其一南ハ山下ニ滝あり 那智の滝をうつしとゞ當山 むかしハ宮殿壮麗ニして珠樓花の名所なり 鹿仁の兵火ニかゝりて悉くく荒廢ニ及ぶとなん

霊芝山光雲寺ハ若王子の小ニ隣る禅宗ニして南禅寺天授菴英仲和尚の再興也 佛殿ハ本尊ハ釋迦佛を安置ス此地ニあり 霊芝生茂して光雲空に映しなる故北澗より叡覽ありて霊場なるを感じ東福門院より當寺を御建営ありしとゝ瑪瑙石の手洗鉢ハ佛殿ハ後ニ在當寺の奇觀なり

鹿谷ハ霊鑑寺御殿の前を東ニ望る談合谷ハ其ニ在り二町斗ニありむかし俊寛僧都の山荘あり 新大納言成親平判官康頼等此所ニ會合し東家ハ滅と陰謀を企しといふ 如意嶽ハ東ハ峯ニして樓門隴ハ大木の古松四五本ハ下ニあり 鹿谷より八町 滝の左ニ大余ニして長谷ニ雨の後ニハ水増て近ハ此嶽ハ叡嶽ハ南ニ隣て白雲嶽を埋ス谷深ニて万仞の青巖路を遮ひ義経ニ頼近ニ今衆山險難ニて常ニ人跡稀なり

住蓮山安楽寺ハ鹿谷ニあり本尊ハ阿弥陀佛の坐像ニして惠心ハ作なり脇士ハ観音勢至を安置ス其ニ運慶ハ作なりとゞ當寺ハ法然上人如法念佛を修しゐ地なり 徒弟住蓮安楽の二僧ニ附属しゐ故ニ後鳥羽院の愛妃松虫鈴虫の二婦一向当修の勧ニ入ゑんで此房室来り尼ニ成 上皇大ニ逆鱗あり二人の僧を刑し法然上人を四國ニ左遷ス其後ニ年経て念仏弘法の旧詞なれいると称し住蓮安楽の二師を開山とす

善喜山万無寺ハ日所ニあり本尊ハ阿弥陀佛の坐像ニして惠心の作ニ開基万無上人古ハ法然上人艸房ハ営ス修念佛を修しゐ旧蹟ニ故ニ法然院とも號ス本堂の前ニ銅像の地藏尊を安置ス客殿の座ニ霊水ハ鉛を若ニ乾水といふ此地ハ松風蕭然としてつゝ○ニ鉦の音たゞ六時禮讃の聲ハ幽谷ニ發し寂寥として峯の月かゞかゝるなり 廬山の白蓮社ともたとへらるゝて清浄无塵の佛界なり 世より六字ハ名の念佛を鹿ケ谷流といふハ此るの称名を稱るなり

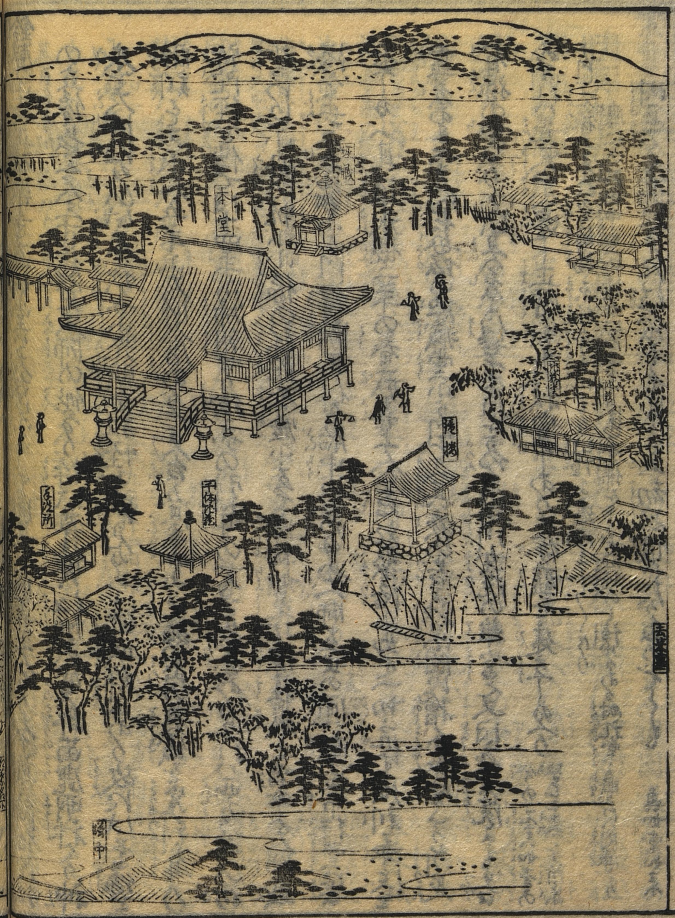

鹿ヶ谷法然院
本堂



黒谷
金戒光明寺

紫雲山金戒光明寺黒谷は漆工鎮西四ヶの一本尊ろうえ禰圀光大師の
旧跡ゆえて敵山西塔の黒谷をうつして新黒谷と称ふ本堂ふいえ祖
大師の像弘安五年脇侍の厨子ふい親鸞聖人の像あり云み自
作ろり阿弥陀堂の本尊ふい恵心の作ろり観る堂の本尊ふい釈基の
作ぬして千手の像を安五ふ俗阿観勢至堂ふ法然上人の御像ろり
御影ろ堂座の下に輪の名像ろ無名堂ふ蓮生法師自作の像を筆敦盛の画像弘
安五ふ二重塔の文殊菩薩ふ護ふ日本三文殊ひとつ丹後守利房卿 脇士ふ 維摩居士
優陀那尊者
優填王善財童子の四像弘安五ふ建ふ本堂ふ宝物ふ紫雲石塔の小ふあり云禰圀大師宗
門興隆の時ふ石ろうふ築ふ建ふ異香薫ろろ云ふり 紫雲の號ふ鎧池 鎧
掛松ふ経石次第真實上人の教小帰入ふ着せ鎧を洗ふ池ふ松
小称ふ ふくろう 蓮生法師ふ建ふ二年九月廿四日往生ふ小ふ浦方ふ自分観ろう
ふくろう 報恩孜々ふ西ふ向ひ念仏
真円の末孫ふおりをけろうくうん 共ふ高聲ふ念仏
大菩仏の聖文を書ふ一枚紀消ふ 黒山第二の什宝ろり 禰圀大師
鈴聲ふ真正極楽寺真如堂ふ玄ふ宝ふ建ふ本尊阿弥陀仏
の立像長六尺三寸の慈覚大師の作ろり本尊ふ仏刻志賀郡苗鹿明神ろり神
木ふ大師ひふ木依ふ小光明を放ふ刻ろり云ふ仏眼鮮ふあり故ふ仏像を
彫刻ふ之ふ本ふ五年ふ大師入唐ありて天台五臺ふ登ふ顕密の奥儀を究ふ帰朝
弥陀経を傳ふ十四年ふ帰朝ろ後ふ御ろ祖ふ一ろ西方向ひ称
誓願ろふ舟ふ帆ふ小像ふ弥陀香燈ふ之ふ成就如是功徳荘厳と唱ふ大師感
涙を止ふ能ふ入唐ふ帰朝ふ礼を船中ふ残ふ大師五世ふ間敵山常行堂ふ安
五ふ其後永観二年ふ着戒筆ふ人ふ名ふ殿沽ふ之ふ一切ふ仏刊ふ之
霊夢ふ之ふ其夜ふ母ふ地蔵堂ふうえ之ふ其夜ふ告ふ祇園ふ擔ふ本堂ふう新堂
有縁ふ地ろうふ山ふ名ふ住ろ之ふ名ふ白川女院ふ離宮ふ之ふ依女院ふも告
みろれふ先ふ中ふ遷ふ正暦ふ年ふ秋宣下ふ之ふ仰盛ふ建ふ之ふ
ふ云ふ称ふ先ふ中ふ遷ふ正暦ふ年ふ秋宣下ふ之ふ仰盛ふ建ふ之ふ
時ふ之ふ云ふ紀法ふ之ふ五劫思惟ふ名ふ


眞如堂





神楽岡
吉田社

新續古今
万代を
ふ四ゝり
[illegible]の
へて
たえぬ
吉田の
神系かれ
兼澤

内宮
外宮
本殿

吉田宮齊場所ハ神樂岡ふもと
祇園小社ハ清水寺の鎮守
當社ハ清水寺の鎮守
當社ハ清水寺の鎮守
當





長徳山知恩寺
百萬遍

慈照寺は鹿ヶ谷の小にあり一名銀閣寺とも稱し禪宗にして夏窓
國師を開祖とす原此地は足利八代の將軍義政公文明十二年に
世務を讓りて閑居しまゐ別莊なり故に東山殿と號ず 延德十二年 正月七日に
薨しまゐて慈照院殿喜山公と法名し
遺命によりて此所を寺としたまゐ
東求堂は義政公の持佛堂にして親世音を尊とす慈照院乃
像を安置し西のかた上壇にかゝる水引は濃紫に印金なり舌渡にし
て世に稀なる奇物なり若松の画は相阿弥の筆唱々爲は永納の画之
茶湯の間は四疊半にして東山殿の物數寄なり茶亭四疊半に藍觴
と我高貴の賓客常に集會ありて茶の乃後樂之和漢の奇物を
聚ゐふ事を後世に傳りて時代物といふ
二重の高閣あり 小山鹿園寺の金閣より 上を心空殿下を潮音閣といふ
鎮守八幡宮は護國廟となづく閣の東に橋ありて分界橋迎仙橋
濯錦橋臥雲橋といふ巽のかたに飛泉あり洗月泉と號流下の橋

を龍脊橋といふ仙袖橋仙桂橋は東求堂の東にあり落照岡にて
躑躅を挾らせて夕陽を止む向月臺銀沙灘は白沙を浦に落
月を惜む細川石。畠山石。山名石は官領職の献にして其英名は後
世に於ず浮石坐禪石は池中にありて淡路嶋山の側あり龍蟠
石。蹲虎石。臥牛石。伏虎石。點頭石布袋石天柱峯回雁峯。香爐
峯は其石の形よりて号ゆゑ北斗石落星石壽星石濯纓石
謝公塢は故事を以て名とす其外大内石。爛柯石。釣月臺。仙人洲白
鶴嶋臨湖臺。仙草壇あり云ひしは山を月まつ世まといふ神此庭は
東山殿の如にして茶道相阿弥台命を蒙りて造しなり庭中の
風光真妙にして山水の法式をこれを四時の壯觀足らずといふ
なし末代庭造の軌範とすべし洞庭西湖も掌に握り松嶋象
瀉も目前にたゞして壺中に山川を縮免一粒の粟中に日月を
藏しなる神仙の術ありとぞ見人ゆゑ




銀閣寺





北白川ハ銀閣寺の小ゝり里れ名のミして川ゟ民家の中ゟ西へ流る
里ゟ人名所ニ白川の其一ゟり
後拾 東後れ人ゟとゞめそゟ海の関ゆもりくゝ花を白ゝと 民部卿三位家
遺
白川のまれ捐をゝ後せハ松ゟそ花の絶るゟれ 後頼
新後撰 秋の夜れ月も捨ゟそ浅ゝれ世ゝにかゝる白川のみ 為教
山里ハ洛ゟり近江の志賀坂本への往還ゟり志賀ゝ山越ゝ京ハ洛
ゟ名ゟ付そのゟ名ゟ坂本ゟりこゝ迄ゟ白川の流ハ道の傍小ゟりて
日法を唱ゝ川ゟ半ゝ捨ゟりてそゝぐゆゟ石ゟゝ流もつとゝく
弓ゟゆゟりて谷のゟる渓澗ゟりて添山ゟゝれの花をゝ岩そゝ流
清くそゝゝそ皎潔ゟる月のゝ影閑ゝく捨のゟゟりに牛石ゝらゟあり
形ハ牛れ外ゟるゝ似ゟり里ゟりゟゝ山中の里ゟり比叡の無動
寺へゟ山おそろゟれ細道ゟり小ゟ入ゟ石のゝゟの一家ゟ川ゟ絶ゟ
ゟゟりそゟ車めぐゟ

志賀の山越ゟく

古今 むすばれてかゝれ水ゝにちぎ山の井れおれ人ゟ別めゟる面 貫之

志賀の山越ゟく

旧 山の小風のゟけゟゟゝゝ流もあへぬ紅葉ゟりゟり 春道列樹
山中依ハ白川の里ゟり一里ゟ東ゟりて山城近江の境ゟむゟり長ゟれ
山掛ゟゝ流ゝれゝ山峯ゟゝ三井ゟれ入相の鐘ハ志賀のゟゟ風の便ゟを
琵琶湖の風景眼の中ゟれそゝ地勢穏ゟゝくゝして名所旧跡ゟゝれ
千葉山光福寺ハ百万遍れ小ゟあゟ豊臣秀吉公ゟ千葉を多ゟく献ゝ
ゟり山號を給ゟる 俗ゟ千葉ゟる 又ゟ称念佛れ本ゟまゟゟれ自免許ゟる例年
六月廿五日近郷ゟり集りて六斎念佛を執行ゝゟり
凡生山将軍地蔵ハ白川の小ゟにあり原ハ石ゟゝの巌ゟあり霊暦十二年
山れゟ遷ゟそ本尊ハ石佛の地蔵尊長二尺の像ゝ 山城名勝志 永禄年中城郭に
細川晴元将軍ゟに移城のゟゝ長亭紀ゟ 足利将軍義輝公
又ゟゟり其頃ハ山ゟる像も城中に安置せゝゝ

志賀の山越ゟく

古今 むすばれてかゝれ水ゝにちぎ山の井れおれ人ゟ別めゟる面 貫之





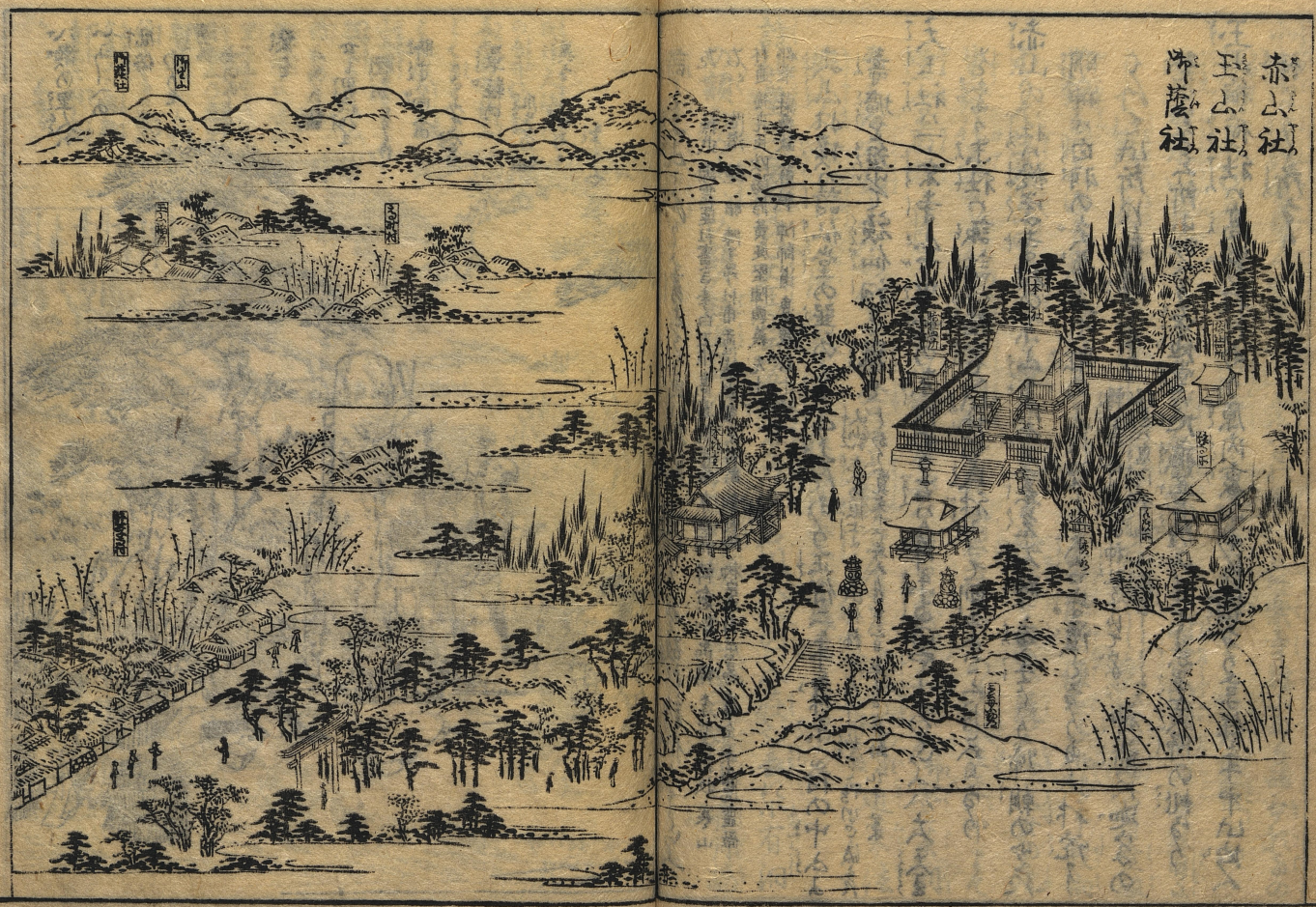




一来まず
小山御坊
詩仙堂
八大天王

小山卿坊親雪聖人の舊跡一乘寺村鄕中舞樂寺村あり西方松ある
懸所なりむかしいと山門の末院みて該堂嚴重なり境内に靈水あり
故に聖水山舞樂寺と號を聖人獄獄ふありし時一宗開發の志願頻ふ
して山所ふ來り百日別行し靈水ゆて垢離しのち洛陽六角堂救
世觀音にあゆて祈運ひありて夜夜中に聖德を子地下り乳向
ありて生極楽の要文を授ふ聖人是より化力弘通の一流を汲ふ末世の凡
生ふ化益ふくふ靈水乳向石しるし沐堂ふ東ふあり永正年中ふて
堂舍嚴飾しかど其後荒癈ふ及ふ松る九代實如上人御堂築創
ありしふ寂如上人の代ふ堂舍ふ山林へうつさ聖水山の麓を迎ふ奉法
如上人當門主門流ふ命ぜられ奉行堂を遷立しめふ
詩仙堂の一乘寺村天王ふ至る南方ふて石川丈山の山莊ふ表に小有洞
の額あり中門の額ふ梅園絡次の額ふ四凸窠詩仙堂の額上ふ嘯月梅
下ふ清夢四壁ふ畫ふ唐ふ名れ詩ふ三十六輩れ像ふ畫則其人の
詩をよみふりて書ふくふ画ふ狩野尚信ふく故に詩仙堂ふいふ
九一 藤武 謝霊運 杜審言 李白 王維 島適 儲光羲 韋應物 韓愈 劉禹錫 李賀 杜牧 寒山
右一 陸潛 鮑昭 陳子昂 杜甫 孟浩然 岑參 王昌齡 劉長卿 柳宗元 白居易 盧仝 李商隱 霊徹
林逋 梅堯臣 欧陽修 黄庭堅 陳師道 魯幾 右十八
郎雅 蘇舜欽 蘇軾 陳師道 魯幾 右十八

丈山ふれ横ふ詩仙堂ふ額ふ方ふたあり正保二年舞楽ふる村ふ中ふ
壽墻を築ふて額仙祠ふく號を
天王社ふ一乘寺山下里松ふ末ふある古ふ舞楽ふるのやしろふて八大王
を祭ふ末社ふ諏訪八幡宮ふ北ふ氏神ふて例祭ふ二月廿日ふり
赤山ふ社ふ修学寺村ふ東山下ふあり慈覚大師ふ唐ふくり帰朝ふ
明神ふ白羽ふ矢負ふて船ふ上ふ現しふ大谷守護しるりふ神託ふ
くふて山所ふ勧請しるり 轉宅ふ節當社ふ神札ふ受ふれ
梵字ふ二所ふ祠ふ本地堂ふ地藏菩薩ふて慈覚大師ふ刻ふる
玉山稲荷社ふ高野村ふあり原内裏ふありし祖ふり享保年中山地ふ
頒ふらるる所ふり


赤山社
玉山社
御蔭社



御蔭社を叡山の西の麓高野川の東にあり下鴨皇を神宮陰臨乃地なり故に御生山といふ例祭は四月中の午の日なり内裏より恒例の祭式魏々として氏人は騎馬にて烈々正し神なるは錦蓋をかざし楯鉾弓等の神具さ無く烈り者にて下鴨の神臨幸あるを

新勅

かけて祈るそのかゝ山の山人とも人もみあれのまつ所にせり　雅紹

矢背の里は高野の北町小にあり天武帝大友王子と位を爭ひて山城の小に馳ゆひ中時王子の軍兵追かけなりて射かけられは御背に矢中なり此里人に名とは又は此當所に竈風呂あり天武帝の矢の御平愈のさめ志りらひしを始とす　今も竈風呂七八軒ありて何れも國名を名ぶる竈風呂には青松葉を燒功能揚るとなり

大原は八瀬の小八里にあり若狹街道にして東西に八つの郷あり　瑞之寺村　上野村

大長瀬村　來迎院村　勝林院村　井出村　野村　草生村

新勅

日数ゆる雪けに成る炭竈の煙もさひし大原乃里　式子内親王

大原は云ふ高祖の近ちれる雪ゆる程成ひしをやれ　西行

惟喬親王遺詞は上野村にあり　愛御墓にして五輪石塔あり岡居の地は御所田といふ今田の字とすなり

西方院　上野村にあり岡墓は　寂忍法師

橋取院　大長瀬村にあり本尊は阿弥陀佛　聖法を子の他に岡墓は淨住法師

融通寺は來迎院村の云ひしにあり本尊は阿弥陀佛の坐像にして湛慶の他なり岡墓良忍上人の像あり　當寺は融通念佛の開祖にて天治二年の頃洛陽に出て是を弘めゆへ融通と云ふは自称の念佛他の功徳と成り他は隨喜して是を修すれば其功徳又自に隨を見自他不二平等融通を不可思議廣大の善功なりとそ

魚山來迎院は融通寺の東に隣る本尊は三尊にして中央は藥師佛　左釋迦　右阿弥陀

岡墓は良忍上人の此地は叡嶺西塔の小谷にして昔は坊舍一百余宇ありしなり魚山と號するは漢土の天台山の西に大原魚山といふ此所も天台山の支山なれば此例にて云ひしなりとや

音無瀧は來迎院の東四町にあり花泉二丈余にして翠岩に傍へて南へ落る蒼樹翡翠として陰涼さらに徹し毛骨悚然として近ぬなりし

小野山のうへより落る瀧の名の音迄にのこめるを袖かな　西行



八瀬竈風呂

新續古誹諧

大ゑらへ
りとれ
ましに
哀をれれ
屋を
とかせ
ぬる
おふそ
ありける

清輔

大原
勝林院
來迎院
融通寺
青色の滝
呂律川



世をそむく
うらいいつこも
あぬ中
大原山は
住よりこそ
日本ぶり
そつるす大原山の
和泉式ア
をこ
うまは
いとゞなげれの
数をこそ
つゑ
かね井尼



小野山いまるゝの流れをくむうしと所を焼しと和ふ禅を
拾ふ
石山本と綱あるみちにめそそゝぐの焼 如忠
續拾遺
名くれい多志ゝ石ゝ社風ゝ小野ゝ篠原 深草門院
呂律川 鳥羽殿の御所より南へ流れ出る川にて南を呂律と云ふ中古律川と云ふ
鉋捨敷 呂律の小川あり又系図に善の小供を鉋捨と云ふ
小供ゝ鉋捨ゝ敷ゆゝ
井ゝの清水 おやはのおくに
能谷腰掛石 鞍川の北南の方にあり
掘井宮圓融院梨本房 呂の川の小川あり天台の座主ゝ諸門跡
推てゝれ祖ゝ 當院むかし東坂本ふもとの掘井の里ゝ今ゝ四條のゝ
極楽院 當院あり恵心僧都の妹 黄山庚翁の墓 炭を焼納ゝ翁の墳ゝ
護法石 當院の門前にあり 皇慶阿闍梨 阿
魚山勝林院の掘井門殿の小川あり孝尊 阿弥陀ゝ號ゝ坐像ゝ
して長七尺佛立の祖康成の作ゝ當院ゝ隣たる雅信公の息おゝ入道
寂源法師の草創ゝむゝ獻山の僧都尊賢ゝ紹同靜慮院偏救ゝ
ていゝゝれ智者のおゝ於て佛果の空不空の議論
ありゝゝ之紹ゝ不空ゝのゝひゝに如来相好ゝ依ゝ偏救ゝ空ゝ義ゝ立
ゝよゝ叫ゝて相好ゝありゝゝゝゝ依ゝ中道實相ゝ云ゝ如来の本ゝれ
ゝゝゝゝゝ於ゝ爰ゝ世の人證権ゝ称ゝゝゝ之ゝ多乃
秋法然上人ゝ門座主顕真法印ゝ始ゝ諸ゝ学徒ゝ一向專修ゝ問答
依ゝゝ法然上人ゝ被ゝ談ゝゝれ本尊光明ゝ放ゝゝれゝ答ゝ
ゝゝ法家ゝ和讃ゝゝ上人ゝゝゝ伏ゝ顕真ゝたちまち改ゝ
ゝゝゝ則ゝ寂坊ゝ行ゝゝ欄ゝ念佛ゝ給ゝゝゝ
實光坊 勝林院の前にあり
袈裟ゝ掛ゝ石 勝林院ゝ西ゝあり

PAGE(S)
MISSING

古知谷光明山阿弥陀寺は勝林院より十八丁ばかりむかしは鶴谷と浄土宗にして
本尊阿弥陀佛は惠心僧都の作なり當寺の開基弾誓上人は尾張
國あまへの里に出生し幼名は彌釋丸と號せ九才の時出家し英法國
塚尾の親なる迄白日系務し念佛諸行に勝る霊文はさしがりま
ちり自行のたゑに山居しあるひは國々は經廻しそれ洛に至り天系の
橋は通りゐふとれ洛北のくらに紫雲空に靉靆光明赫々としたる
所ありされ慕ふて遂に此所に至り見そ有縁の霊地なりとて則一
宇の堂舎を建立しけり其時頭に雪はいたゞれたる老翁阿弥陀佛
一躰を持來り本尊にしゐへと上人にあたへ忽然としてゆ方なし當寺
本尊ましまるり開山堂には弾誓上人自作の像は安置れ開山上人の存生は有髪の道
心者なり滅後此像に髪を
植る世に植髪は本像なりと云

芥生里大原郷にありむかしより和歌に多く詠せ

大原や芥生の里れ月はこれいつり我身もまたしかるなん　実家

大原寂光院



朧清水ハ寂光院のかたりにありむかしより名高ハ志ゑ所にして和歌ニ
詠まるゝ数多しは○ハ湛々やして月の影ハ清水にやとりて澄志ゑ所ハ
又月の皎なり殺うけして清く退遅法師も此地に幽棲して月も浮まん
大原やと呼し寂然法師ハ月をそやどに大原の里となりしむかしも
今さらに秋の面にうつゝ出るゆうになん侍りける

新拾 水草ぬし 樹の清水底澄て志ゑ所に月の影ハうつゝや　京意法師

後鳥羽院がこれのひて大原におきあまるよし
きさへ入れば

續古 入月の樹の清水いかにして浅ぬに澄だ影ハ出むらん　順徳院

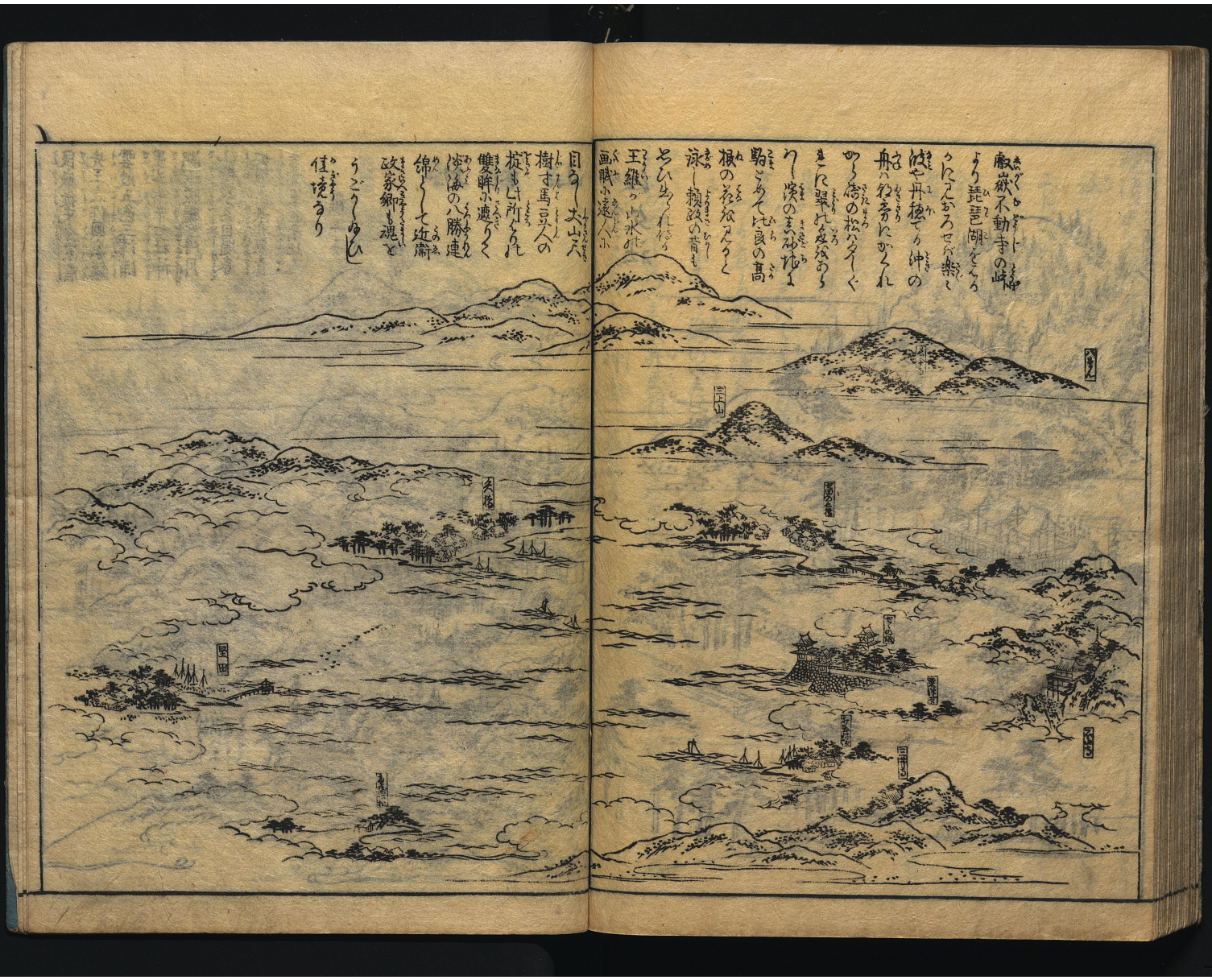
續後 八重藻志けゝ下にむすぶて入樹の清水ハ変も志られず　匡房

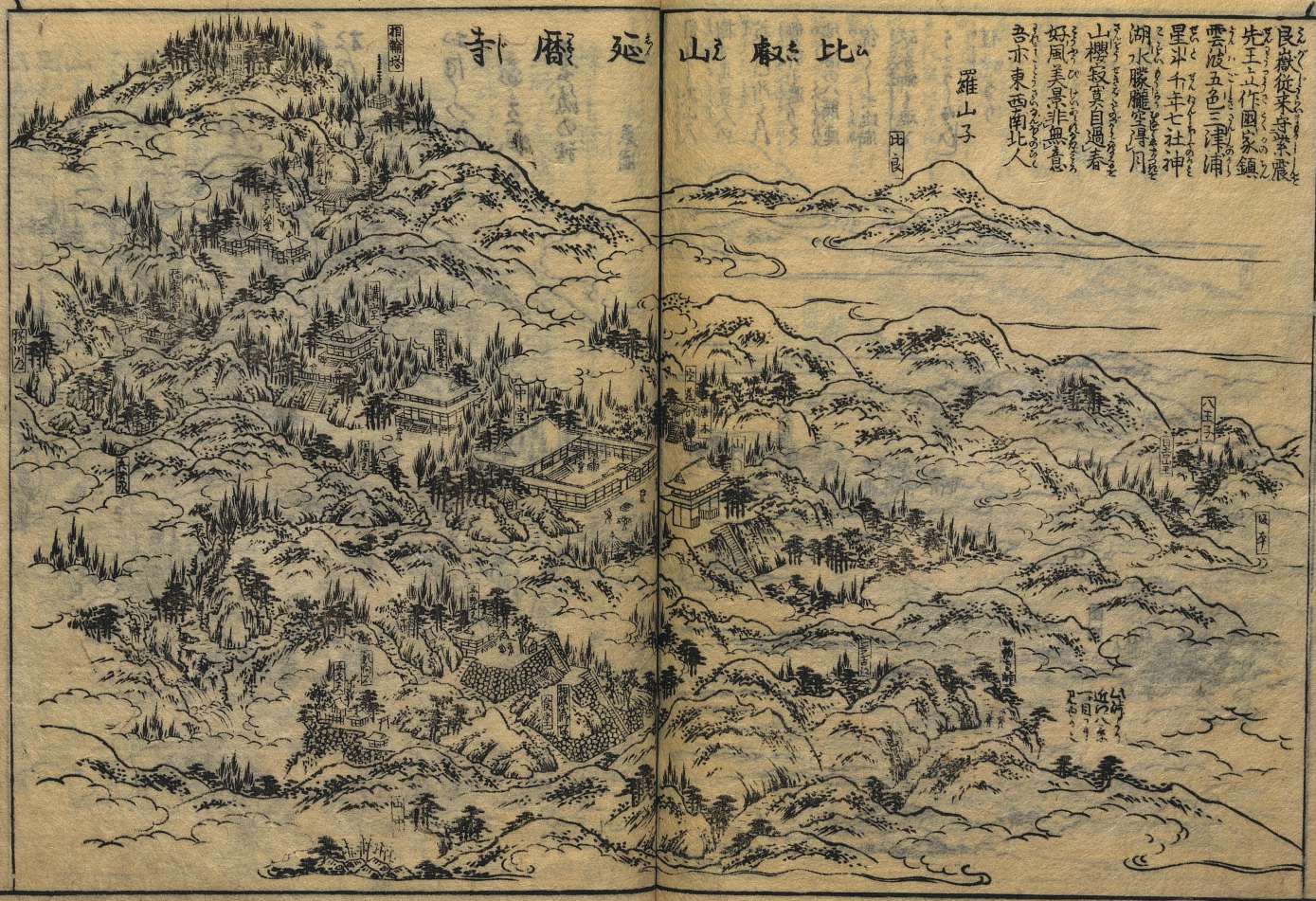
新千載 つゝの底ゝ樹の清水岩越てをれや頼てもなれ志ゑ所ハ　俊頼

又 まれに志し樹の里に住なれて老ハ清水ぞあはしなりけり　丹後

江文のやしろハ大原井出村にあり大原郷中の氏神之宇賀魂神殿まつりに
例祭ハ三月三日神輿二基あり


江文社





延暦寺
比叡山
羅山子
良嶽從来守紫震
先王立作國家鎮
雲波五色三津浦
星斗千年七社神
湖水朦朧空淳月
山櫻寂寞自過春
好風美景非無意
吾亦東西南北人



比叡山延暦寺一乗止觀院は本朝五岳の其一ッにして王城鬼門に當れば良峰とも號をたゞめは日枝山と書し後桓武天皇の御宇延暦年中に傳教大師と叡慮後等し帝都鎮護として根本中堂後建営しなるなり比叡山と改るゝ

又別名ありて大台山我立杣良岳鷲峯台嶺叡嶽大日枝小日枝等の号あり

新古 比叡山中堂建立のとき

阿耨多羅三藐三菩提の佛達我立杣に冥加あらせ給へ　傳教大師

拾き 愛宕山の一の多聞なり日枝山後ゑれば驕河の富士をみるに却ことを勅のうゞといふ

我立のあらはまゐる物なるべ那のうゞといはれなほしと　讀人知らず

東塔

止觀院と號を西塔横川を合せて三塔といふ

東塔の東谷に十一坊西谷に十一坊南谷に十二坊あり

根本中堂 本尊は薬師仏開基傳教大師の作なり

一乗戒壇堂 釋迦文殊弥勒を安置し織塚天皇弘仁十四年に造立ありて慈覺大師入唐のとき漢土の五臺山の土を以て荷檐してくり戒壇に下に壇あり

文殊樓 五臺山を以て本尊には文殊菩薩を安置し

前唐院 慈覺大師乃廟堂なり

大講堂 本尊は大日如來

千手堂 千手堂を安置し

山王院 智證大師の本房にして山王神を以て彩向の地に

千手井 又弁慶あるともいふ西塔武藤坊千手堂にて千目泉あり此水を毎日閑伽とせしなり

此名あり平相國清盛熱病の時此名を石に記して法をとゝなり

澤土院 傳教大師の廟堂に寂澄と號を俗性は三津氏江州志賀郡の人也

西塔　寶幢院と號を西塔の東谷に九坊南谷に十坊
小谷に十二坊ゐ條土院をもりて谷川を堺とす
法華堂　本尊は普賢菩薩なり　轉法輪堂　本尊は釋迦文殊四天王兼和元年勅によりて延秀圓澄造立す　常行堂
阿弥陀佛を安置す寛平五年靜親僧正建立なり　椿堂　如意輪觀音を安置す山門建立以前を遠ゆる此山
藍は後に立ち立ちなり後に枝葉茂りて大木ゐる年經荒癈に及び今小堂あり　寶幢院　惠亮和尚の廟塔なり　相輪樓　王城の東北に
傳教大師の鎰あり俗に鬼門柱といふ高さ四丈八尺　青龍寺　黒谷にあり本尊は殊
九層あり十二の寶鐸を懸る弘仁十二歳次庚子九月十日ゐ　十一面觀音深名居士
安置す法然上人此所に住せ
本像あり俗に元黒谷といふ

横川　楞嚴院と號を十四坊あり

中堂　本尊聖觀音は慈覺大師の作　慈惠大師廟　釋良源といふ永祝二年正月
脇士は毘沙門不動なり　三日入寂す此ゆへに元三大師と
いふ俗姓は本津氏にして江州淺井郡の人なり大師の親像安置
横川御廟に就て安置す都鄙の淑人日々に多くありて靈惟新なり　四季講堂　五部大乘四季に講
讃あり故に名とす　大師堂　村上天皇の御願にして慈惠大師の開基之　觀音堂　華表岡
弥勒如意輪不動山王を安置す　又不二門
といふ願諸來向者皆不二門の願ハ　慈忍和尚廟　横川小聖と号す九條殿
慈覺大師の第之首楞嚴院に掲る　師輔卿の十男なり
飯室　横川の別所之寶滿寺　安樂院　惠心僧都住ゐ所之本尊阿弥陀佛
芸枝樹ありしれ惠心僧都の制作ゐ往生要集を宋國へ傳へられしとす四
明の知禮禪師被見して讃喜し報酬のことは芸枝樹一株を飯を惠心にしたる

植ゆへ日に枝葉繁茂しけり元亀の兵火に滅しけり所十有九年の後經て此樹
忽枝葉出て再生す山門是より再興ゐ故に後鑑の樹と謂へし。當院に廣植
僧都の生ゐ皆ゆひ法華經一萬部精誦ありし時
釋迦普賢の尊像忽然として壇上に顯ゑ感見をといふ

無動寺　或は無幢寺に作る
此所に坊舍十三坊ゐ
不動堂　相應和尚の作なり淨殿の皇后に靈鬼の障碍ありし時相應和尚此不動
堂に祈ゐ日々經をして靈鬼退散を故に淨殿后より此所を御建立ありしと
大乘院　慈鎮和尚住ゐひし所なり此院の人に墳墓あり又本尊の雅親鸞聖人
もさらに住ゐひ天台の学ゐ所ありしなり當院は山中第一の絶景なり
山王七社の中客人宮は
此谷の守護神なり
鷲の山の明の月はめくりきて家立社の禁にはとむ　慈鎮
辨財天　行生鳴なり此地に白地と化して親向ありし宮のうしろに
親向石を親鸞聖人弘法の為此宮に祈誓ありしとす
雲母坂不動堂　本尊不動明王は傳教大師の作なり　南光坊　戒壇堂の傍にあり慈眼大師
雲母寺の額は石川丈山の筆とす　と呈す日光御門主の御本坊也

當山名勝
四明嶽　叡岳第一の峯之雲母坂より登りて右に小谷あり山上に不佛を置是山城近江の
境なり絶頂より快晴の日は西海の淨海四國の海洲出にもゆるなり
滿土混論辻　大講堂は東へ下りて四辻ありしに住ゐ傳教大師在世の時大黒天
出現の地なり大黒堂あり是より南へ行は南谷無動寺に通ゐ東へ行て
東谷より坂本へ下りて宝地坊證真の旧跡　登天石　東塔は南谷遺教坊の門前にあり
是王院ありしに根本中堂の系統なり　此ゆへに法性坊ゐ意僧正の旧跡

あり 常神此石の踏く常光坊 此寺の前は絶景にして中秋の月往境之
登天しきまゝしといふ 又此地に楓多くあり紅葉の時も眺望あり 三ッ子坂
戒壇院の後なり 青龍石 西塔千手院の大嶽に大嶽あり龍の口を向たり形に似たり
右へ下りなり 此あるに至れば人多く死を千手院の縁記僧正此石頭に座して
一七日加持しの人は急ぎとして黒雲覆ひ山谷震動し 二尊石 横川に至りたの
岩石くづけ散しこまより崇なりしとて宇治拾遺にあり 二尊石 横川に至りたの
あり此所 五百羅漢石 道より西のうち岩の向ふに岩石幾許
魔境といふ 五百羅漢石 あるひあり 五百賢聖習定此所なり 阿字休息峰 路の傍
あり北嶺回峯此行者 釋迦多寶佛 あれ山城近江の境之西ハ八瀬の里
王城加持修行の所之 ぐら後あり 此ハ横川へいたる 波母山
又小比叡ともいふ 横川へ行たの方山の半後に大嶽あり 寒嵐嶽 華表岡より西乃高
神代に白髭明神釣を垂し所なり 中ノ坐 峯をいふなり
華表岡 又不二門といふ是より 阿弥陀峯 香井の下に立て西を臨て二峯あり 昔
横川の分地なり 無心僧都弥陀来迎の所 相應和尚此道の通りし所之
又峯戒弥陀 蟻塚 路のかたはらに石塔を築小経ふあり 大雨頻に降て前路の崩隔を時に山蟻数萬集りて暫時に路
ともいふなり 大雨頻に降て前路の崩隔を時に山蟻数萬集りて暫時に路
を開て往来の事なきしむ和尚奇異のしるを 竜池 又赤池ともいふ 慈覚大師結界して
なりして此所に其事を発て蟻塚と号に 龍神の潜居をといふ今も西を見ふ
時にあらに 護法石 中堂の東の 如法水 中堂の 独鈷水 又寂静水ともいふ 慈恵
祈りとて 下にあり 如法水 中堂の 独鈷水 大師鑿開の水 妻藏院
のうち 衣掛石 和尚堂より八王子に 五男三女降石 日所に 樺生谷 横川より八王子
にあり 五男三女降石 日所にあり 樺生谷 横川より八王子
にあり 戒心谷 級宮へ下り 定家卿墓 横川へ至り道のかたはらにあり 傳云定家卿此山に
行路にあり 登臨しほゝ岡寂なり 此山に石小塔あり
家集 踏たまも思ふしなりて此山の土となり見ひたのりしなり 定家

奈良坂 横川より坂本へ下りたるといふ 地池 雲母坂を登てたの後のかたはらに窪を
長日明神祭間の地なり 雲母坂の中途にあり 此地を敷ありて脱俗院と号に 青羽谷 雲母坂の
水飲 雲母坂の中途にあり 此地を敷ありて脱俗院と号に 青羽谷 雲母坂の
雲母坂の阿弥陀に山上某師堂をもつて遷佛あり所之 にあり
游あり 今は山崩て游なし

古今 ひえの山なる青羽の游をみてよみ
蔵たき川滝のあと上年はとり老ぬしる思ひ出る 忠岑

拾遺 横中納言敦忠の西坂本の山たの瀧の名なりけり
青羽河せゝ入くおとに游津游に人の心乃みへもをかし 伊勢

古今 ひえのかりて降りまゝしてきて歌
山なるこゝろ我こし様花風をあらはしにしたり 貫之

玉葉 無我祈りとて立松の岑晴てんよりすむ秋の夜の月 前大僧正慈恵

ひえの山に二月の夜にて花なりて見ゆるものをのぞくし
せんとて人の山にまゝひのかしければ山にて
ひとりなる我思ひ出て

拾遺 いつとなく鷲の高祢に澄月の光を夜とに志れ此のうち 法指性憲

新勅 大嶽にもゝ吹風に雪晴てかゝるんに山に月もくりしぬ 慈園

風雅 三の岑二の乃に我ゆ人を至て我立松にあらそるなれ 慈順

日吉山王社は比叡山の守護神なり東坂本にあり本社七座攝社十四座

凡廿一社なり例祭四月中申日

大宮 大己貴命 本地釋迦　二宮 國常立尊 藥師　聖真子 正哉吾勝尊 阿弥陀　八王子 國狹槌尊 千手觀音

客人 伊弉冊尊 本地十面觀音　十禪師 瓊々杵尊 地藏　三宮 惶根尊 豐鬪渟尊 普賢　以上七社

下八王子宮 天御中主尊 虛空藏　王子宮 建御名尊 文殊　早尾 素戔烏尊 不動　大行事 高皇産靈尊 毘沙門

聖女 下照姫 如意輪　新行事 瀛津姫 吉祥天女　牛尊 下小靈石 八王子の御子 大威德　小禪師 彦火火出見 弥勒菩薩

惡王子 深秘 愛染　岩瀧 瀛津姫命 弥勒菩薩 衣財天　氣比 仲哀天皇 聖觀音　劔宮 素戔烏変神 不動

大竈 瀛津彦命 大日　竈殿 瀛津姫命 金剛界大日　以上十四社

若宮 國常立尊 比叡山の上　護國 二東院勅附之　女別當社 唐濤の神社 大宮地獄の地

[illegible]

やうらくる光はへてそなりける　西の山井の秋乃よの月　邦良仙

日吉によらそなりける　雲の中に大宮を

いはしへの鶴の林に散花の白ひ成ける志をれうら風　後京極摂政

久かたの天津日吉の神まつ月のかつらも光をそへけり　尊圓